



日本イエス・キリスト
教団 顧問
福岡教会 名誉牧師
横田 武幸

「子どもを愛し、教会あげて 子どもの救霊と育成に励もう」

教会に、子どもたちの声が聞かれぬようになって久しくなります。子どもの求めるものと教会が与えようとするものとのギャップがあり、そのギャップは大きくなるばかりのようです。教会もその対応を求められ、今、苦闘しています。

しかし、社会構造の変化の波を受け、その大きな波に対応しきれない、ある意味においては絶望的とさえ思える状況です。

神は、一人の人間を限りなく愛し、一人の人間の救いを求めておられます。どうにかならないものでしょうか。そこで、二つの提案をしたいと思います。

【提案1】

子どもへの伝道を教会学校の働きと限定せず、また、教会学校教師だけの使命と特定せず、主の教会の重要な働きと位置づけ、教会の礼拝や祈禱会においても教会学校のために祈り、教師たちの奉仕活動を具体的に支援する。また、教会学校の活動を逐次報告してもらう。

これは教会学校が教会全体の働きである、との信仰からです。

教会学校の働きは、目に見えるというよりも、目に見えない、人目につかない根元の部分の働きです。しかし、蒔かれた種が芽を出し、成長し、花が咲き、実を結ぶのは、人目につきまでするので、楽しさ、喜びも大きいものです。

主の働きというものは、一年また一年、春夏秋冬変わりなくその奉仕を継続するものであり、信仰、愛、忍耐、忠実が必要です。

「だから、愛する兄弟たちよ。堅く立って動かさず、いつも全力を注いで主のわざに励みなさい。主にあっては、あなたがたの労苦がむだになることはない、あなたがたは知っているからである。」（1コリント15・58）
最近、わたしたちの教会も子どもで賑わうようになって来ました。子どもの声のない、泣き声のない礼拝は、静かでないようですが、淋しい。また教会の明日が心配です。この「春」のような子どもによる賑わいは、教会にとつて大きい喜びであります。この賑わいが訪れる前の教会学校の教師の愛と忍耐は、大変なものでした。

教会が、子どもたちのための特別プログラムを持つようになりました。教師は、教師としての奉仕のみならず、子どもたちを連れてくるお母さんたちのための伝道とフォローアップ、礼拝中の子どものお世話、月一度の「トドラースクラブ」（よちよち歩きの幼児とお母さんのための子育て支援サークル活動）が長い祈りに支えられ、ようやく実を結

ぶようになりました。

教会が、子どもを重んずるパラダイムのシフトをし、子ども連れのお母さん方が、気兼ねなく安心して幼児を連れてこれるようになったのです。また、そのお母さん方の中から「楽しい聖書の学び」をされ、ようやく受洗者も起こされてきました。続いて受洗準備中のお母さん方もいます。これは非常に嬉しいことです。

この働きも少数の教会学校教師だけの働きだけでなく、教会全体によるチームミニストリーとして取り組んでいます。

【提案2】

子どもたちの受洗を積極的、信仰的に奨励し、推進する。クリスマスチャンというマイノリティとして心細く、淋しく、育てるのではなく、神の教会の大切な一員、神の栄光のため、この世の中で活躍する有力なクリスチャンであることを、牧師はじめ教会全体で位置づける。そして、子どもが信仰の道を大胆に、胸を張って進むことを激励し、また賞賛する。

体の誕生日を喜び祝うことはよくあることです。が、もっとも信仰による誕生日である「洗礼の記念日」を祝うべきではありません。洗礼を受ければそれで終わりでなく、神の栄光のため、福音の前進のために召されたものとして感謝する。神の家族の一員である自覚を持つために、大々的に家庭で祝宴を開くべきではないでしょうか。また、クリスマスチャンホームの誕生と成長のため祈ることをも提案いたします。

牧羊者

目次

巻頭言	1
『牧羊者』使用状況アンケート結果	3
キリストの教え	9
神	18
旧約聖書 I	30
キリストとの出会い	45
牧羊ひろば（長崎めぐみ教会 湖西教会）	48
おわりに	50

〔凡例〕

- 1、原語について：ギリシャ語は「ギ」、ヘブル語は「ヘ」、アラム語は「ア」で表記しています。
- 2、礼拝メッセージ例の最後の「さんび」の略記について
「ホーリネス・」「ホ・」……………日本ホーリネス教団
「インマヌエル・」「イン・」……………インマヌエル教会学校部
「日キ・」……………日本キリスト教団出版局

『牧羊者』使用状況アンケート結果（その1）

教会学校局

昨年十二月から今年一月にかけて、教団諸教会宛てに『牧羊者』についてのアンケートを送らせて頂きました。お忙しい中、三十六教会から貴重な回答をお寄せ頂き、感謝しております。

回答率は決して高いとは言えませんが、教団教会の利用状況の傾向を、把握することが可能な回答数は集まったと思います。今後の『牧羊者』制作に大いに参考にさせて頂きます。

また、お寄せいただいた回答を、内容別にまとめました。それに対して、各担当の執筆者の先生方にも、コメントを寄せて頂きました。また、CS局としてのコメントもつけさせて頂きました。結果的に、三者懇談のような形になりました。今後も、『牧羊者』制作が、利用者、執筆者、CS局の三者の、チームとしての働きとなっていければ感謝です。

しかし、その分、内容が大きくなりましたので、結果のご報告を二回に分けさせて頂きます。今回は、（その1）として「全体的利用、本誌、ワークについて」を、次回は、（その2）として「付録、カリキュラム、その他について」を、ご紹介いたします。

一、全体的な利用について

	使用教会数
本誌	32
ワークA	16
ワークB	16
ワークC	16
ワークD	12
中高科へのヒント	9
子ども聖書日課	21
フラッシュカード	20
み言葉カード	9
用いていない	4

最近の『牧羊者』本誌および各ワークの販売部数は、本誌606部、ワークはA70部、B73部、C67部、D55部です（3/5現在の登録数）。アンケート結果は、ほぼこの販売状況を反映しています。（5/7現在、「2010」は、本誌647部）

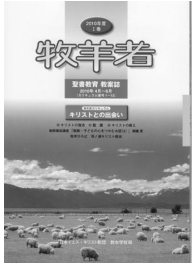
なお、「中高科へのヒント」、「子ども聖書日課」、「フラッシュカード」、「み言葉カード」は、『付録』として付けているために、これまで各教会でどれほど用いられているかを把握することができませんでした。今回のアンケートを通して、いずれも

教会によっては用いられていること、特に「子ども聖書日課」と「フラッシュカード」は、三分の二近くの教会が利用していることが分かりました。

二、本誌について

（月刊ベラカ 4月号 P21参照）

① 聖書講解



メッセージ準備と共に、教師自身の学び、養いのためにも、用いられているようです。成人科や祈禱会での学びに用いている教会もあります。

【利用者の声】



「聖書講解や研究資料を読むことは、教師である私自身の信仰の整えのためにも、大切な時間となっています」（同趣旨意見多数）

「わかりやすい」

「メッセージの助けとなります。少し引用するところもあります」

「メッセージ例を学んでいて、よく理解できない場合に、聖書と照らし合わせながら、利用させて

もらっています（研究資料と合わせて）

「少々難しい」

「聖書を読んだあと、まず聖書講解、研究資料を見て自分自身学んでいます」

「礼拝説教の時に参考にしたりします（教職者）」

【執筆者からのコメント】



私にとって講解の執筆は、とても聖なる努力を要します。しかし、これを読んでくださって、一人でも多くの方の霊的成長、奉仕のために少しでも益するなら、こんなに嬉しいことはありません。

【CS局より】



聖書講解は、メッセージするCS教師の方々に、まずみ言葉から恵まれて頂くことを目標にしています。ご自分が恵まれた中から、子どもたちにも語って頂きたいと願うからです。もちろん、その他、広い用い方をして頂くことも感謝です。

② 研究資料

聖書講解同様、メッセージ準備と共に、教師自

身の学びにも用いられているようです。

【利用者の声】



「特に研究資料は、本当に恵まれます。深く教えられています。執筆して下さる先生方にいつも頭が下がります！」

「メッセージ準備に有効である。聖書の一つ一つのことばを、子どもの理解を引き出すために、教師自身が先ず消化する助けになる」

「自分で調べなくても、これを読めば聖書研究ができ、聖書の理解が深まります」

「講解、研究資料、メッセージ例のすべてを読んだ、その週の目標に沿うように準備しています」

「講解があるのだから、研究資料は不要ではないか。教師が自分で注解書や辞典で調べれば良いので、研究資料はサビース過剰ではないかと思う（教職者）」

【執筆者からのコメント】



聖書講解と研究資料との役割分担が課題ですが、あくまでも講解や説教例がメインで、研究資料はその補佐役だと考えています。氷山が目に見える部分だけでなく、水面下にも大きな氷があるように、直接説教には表れなくても、CS教師が知っておくと良いと思われることを1ページに厳選し

て記すように努力しています。信徒の読者を第一に想定して、専門的になりすぎたり、私たちの教派の伝統からかけ離れることのないように心がけつつ、試行錯誤しながら執筆しています。今後ともご意見をよろしく願います。

【CS局より】



注解書や聖書辞典を一通り揃えて、ご自分で聖書研究して頂く事がベストですが、そこまでの力や時間的余裕のない方のために用意しています。該当聖書箇所に特定して、カリキュラムの目標なども踏まえながら記されていますので、メッセージ準備に有効に用いて頂けるのではないのでしょうか。

③ 礼拝メッセージ例

最終的にメッセージを準備する際の参考として用いられているようです。メッセージ例そのままというより、各教会学校の現状に合わせた柔軟な用い方がされているようです。

【利用者の声】



「基本的に、毎回のメッセージは、礼拝メッセージ例を参考としています」(同趣旨意見多数)

「すぐわかりやすいです。これがないとメッセージできません!」

「大いに参考になる。ともすれば我流になることを軌道修正してもらえるが、頼り過ぎないようにしたい」

「難しい所や例話をはぶいたり、変えたりしますが、目標に沿って話すようにしています」

「この箇所をいちばん先に開き、聖書を読み、その後、一通り目を通します。その後、聖書を何回も読みながら、礼拝メッセージ例をじっくりと学び、自分なりのメッセージをまとめています」

「礼拝メッセージの中から要約することもありますが、自分の言葉で、起承転結の4つのポイントでテキストを作ります」

「お話の始め方が、とても参考になります」

「例えの良いのは使わせてもらっています」

「例話はどうしても借り物になってしまいやすく、個人的には話にくい」

「良いが、例話について『それ誰のこと?』と思うこともある」

「子どもには少しむずかしいかなと思うような表現もある」

「例話が本題と少し離れているときがある」

「適用が、お決まりの模範回答のようになっていて、かたい時があると感じています」

「時に、律法的にまとめをされている日がある」

の感動したポイントを加えたり、子どもたちに合わせて、結論を自分なりに変えることがあります」

「子どもたちのためだけでなく、準備する側も大変恵まれています。教団の執筆者の先生方のメッセージを読むことができて嬉しいです」

「メッセージ例に頼り過ぎて、純粹に聖書のみ言葉そのものから聞くことがおろそかになれば、それは良くないと感じる(教職者)」

【CS局より】



メッセージ例も、あくまで説教準備の材料です。CS教師という「器」がみ言葉を消化吸収し、その器から出てくるメッセージを語る、これが大切な原則です。「書き言葉」と「話し言葉」の違いもあります。そのまま読んで用いられるわけではありません。そういった面で、多くの皆様が、これを参考に、ご自分なりのメッセージをされている様子、感謝です。

④その他

(巻頭言、教師養成講座、牧羊ひろば)

【利用者の声】



「参考になることが多いです。おや?と感じる時

もたまにあります。語句のチェックだけでなく、内容についてもチェックしていただけるとありがたいと思います」

「CS教師会にて、教師養成講座の輪読、ディスカッションに用いている」

「教師養成講座は楽しんで拝読している」

「牧羊者はCS教師だけでなく、希望者も自分のデポーションのために用いています」

三、ワークについて

(月刊ベラカ 5月号 P21参照)

主に、教会学校の分級で用いられていますが、教会学校に出ないで大人の礼拝だけ出て帰る子どもに手渡したり、メッセージの適用を考える参考にしたります教会もあります。

【利用者の声】



「ワークは子どもたちがよくやってくれます。聖書を開いて確認したり、友だち同志話しあったりします」

「お話の内容を繰り返しながら、問題に答えられるように導いています」

「分級時に使用。聖書知識に関する設問の部分が

多いように思う」

「ワークを用いてCS教師と生徒が良く会話がで
きる。問題に対しての解答が、どちらにもあては
まるような、的確な答えになっていない場合があ
る」

「分級においては、教え込む勉強というよりは、
個人との交わりや感じていること考えていること
を、話し合い分かち合うことを望んでいます」

「ワークでの学び形式を試みたこともありまし
たが、定着しませんでした。どうしてもメッセージ
中心で礼拝形式を進めていくの方が聖霊の流
れをとどめず、やりやすいのです」

「質問に対する解答が記載されていることはとて
も良い」

「B、C、Dはレベルに違いがあまりないと思え
る週がある点は気になる」

「Aを小学4年まで、Bを小5〜6年、Cを中学
科、Dを高校科に用いている」

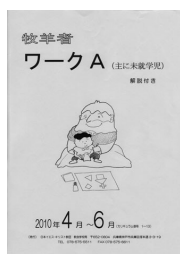
【CS局より】



ワークは、主にCSの分級で用いられることを
想定しています。メッセージで語られた内容を、
子どもたち一人ひとりが、とらえ直し、自分の生
活に当てはめていくこと（適用）を目標としてい
ます。ですから、ただテストのように答えを出し
て、正解ならOK、というのでなく、子どもたち
の思いを聞き出しながら、み言葉の適用に結びつ

けていくための手がかりとして、用いて頂ければ
と思います。

①ワークA



【利用者の声】



「幼稚科クラスで楽しく取り組んでいます」

「大変に利用させて頂いてありがたく思います」

「幼稚科というより、小学校低学年でもよくら
いのレベルなので、ほとんど教師がやっている感
じです」

「近年楽しい工作が増え、感謝しております。字
の読めない子どもが多く、使いづらいことがあり
ます。幼稚科で使っています」

「時には厚紙にコピーし、工作しています」

「幼稚科では『成長』を使っています。紙芝居の
ように使えるからです」

【執筆者からのコメント】



「小学生より下の子どもたちが、メッセージを理
解する手助けになるようにと工作や言葉のパズル、
すごろくなどをワークにしてみました。しかし、

工作が良いとアドバイスされ、毎回工作をするよ
うにしました。執筆時期になると良いアイデアを
与えてくださいと祈りつつ、悩みながらやってい
ます。締め切りまでに、どうしてもアイデアが出
てこない時があり、そういう時は難しいものにな
っているかもしれません。それぞれの教会で『今
日のワークは難しい』と思われる場合は、何か工
夫して用いていただけたらと思います」。

「ワークAは幼稚科向けということで対象の年齢
幅が広いので、すべての子どもたちが自分です
るというよりも、子どもたちは色を塗り、はさみで
切ったり貼ったりは先生が行い、その間に、その
日のメッセージを思い出しながら会話が生まれる
...ということを目指して作っています。ぜひ子ど
もたちと先生方の間で会話を弾ませながら取り組
んでいたきたいと思います。」

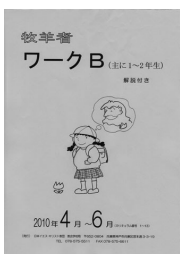
ワークAは、幼稚科の子どもたちにとっては、
理解しづらい霊的な内容を絵や形で表現する難し
さがあり、苦悩しながら制作しています。時々字
が多いものになってしまう時がありますが、先生
方が子どもたちに、わかりやすく読んで説明して
下さると感謝です」。

【CS局より】



幼稚園生が対象なので、一緒に楽しく作業しな
がら福音のイメージを体験できるようなワークを
目指しています。

②ワークB



【利用者の声】



「小1～3年までの分級で用いている。子どもたちにもわかりやすい言葉づかいで、内容も適当と思われます。今までは子どもたちが個々に短時間で記入し、できた順に帰っていました。しかし、最近、ワークを順番に読みながら、礼拝メッセージをなお深め、子どもたち一人ひとりの考えや思い等を聞き、役だっています」

「(ワークCと共に) A4サイズの裏と表にコピーし、CS礼拝に続いて持たれる小学科(1～6年生) + 中学生ジュニアクラスで使用しています」

「どの答えを選んでよいか迷うことがあります。小1～3年が使っています。イラストがあつて感じが良いと思います」

「前年度より、わかりやすいワークになっていると思います。子どもの顔を思いながら、ワークをそのままコピーして用いる時も、また、付け加えてコピーして用いる時もあります。分級ワークを預かり、年度末に綴じてまとめたものを個別に返そうと考えています」

「低年齢では暗唱聖句を記入するだけで大半の時間を費やすので、穴埋め方式のほうが便利だと思

います」

【執筆者からのコメント】



参考意見を受け止めつつ、さらにわかりやすいワークを目指します。お祈りください。

【CS局より】



三つの訳の公的聖書があり、表現も違うことから、穴埋め問題は用いないようにしています。利用者の側で、その部分を穴埋め方式にして頂いてもよいかと思ひます。

③ワークC



【利用者の声】



「子ども曰く、『丁度良い問題です』と」

「専門的過ぎることもあります、よくまとまっていると思います。小4～6年が使っています」

「小4～6年生に使用してきましたが、小6の子どもたちには平易のようなので、小6の子ども

ちはワークDを最近用いるようになりました」

【執筆者からのコメント】



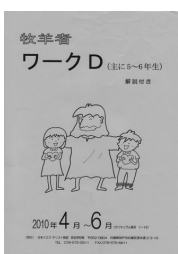
「テスト」のようにならないよう、年齢にふさわしい楽しいワークを目指していますが、まだまだ力の及ばないところもあるかと思ひます。またご意見をおよせくだされば感謝です。

【CS局より】



CS局としては、Aを幼稚園科、Bを小1～2年、Cを小3～4年、Dを小5～6年という設定で作成しています。それぞれの現場の状況もありますので、別の用い方をして頂くことは全く構ひません。ただ、制作側としての設定が、どれほど実際のワーク作成に反映できているかは課題です。

④ワークD



【利用者の声】



「5～6年の分級テキストとして用いている」

「中学生に用いている」

「高学年ではワークはあまり使っていないです。子どもにとって難しい質問やことばが多かったり、字がしきつめられていると、あまり興味がわきません」

「中学生はレベルに応じて、ワークCとDを用います」

「T師のワークDに人気があり、楽しい仕掛けがあるワークが多いので楽しんでやっています」

「小5～6の分級の教材として用いている。量が多過ぎる時や、大人でも考えさせられるような難しい内容の設問の時がある。小学生には難解な内容であれば、Cに替えるなどの配慮が必要だと思っている。内容自体は、各先生の工夫とご苦労がうかがえる良いものだと思う」

【執筆者からの「メント」】



「アンケートの統計からするとワークの中でDが最も利用数が少ない結果がでました。原因として、ワークDの内容が難解なためにワークCを使用しているため、またワークDで想定されている小学校高学年の出席比率が低い可能性も考えられます。執筆者として今後、もう少し平易な設問と画面構成にする必要を感じております。」

高学年ともなると自分の心を表現できる年代になりつつある時だと思えます（逆にそれができなければ訓練されるべき年代とも言えます）。その高

学年対象のワークDの目指すところは、できるだけ子どもたちの生の心（本音）を引き出すような設問作りではないかと思っています。これが実に難しいのですが…。」

「ワークDは5～6年生対象という意識で作らせていただいています。内容によって、また集う子ども達の様子で、それぞれの教会に合わせて使っていたら感謝です。適用を重視しながら作っていますので、ところどころ答えがない質問もあり、大人にも答えられないものもあります。すみません。でも大人が答えをもっている必要も無いかとも思っています。その子その子の考えや、感じた事やどんな経験をしているのか、悩んでいる事はないか、子どもから話してもらえきつかけになることを願っています。」

自分も使っている中で、もつとこういうように作れば良かったと思う事や、分級の時には心にゆとりをもつて、耳をもつと傾けたいと反省しながら、ワークを使っています。ワークに取り組ませる事が目標になつてしまうと、一番肝心な子どもたちが無視されて、結果的にワークに振り回されてしまいます。出来る限り、礼拝メッセージの復習テストのようにならないことを目指しています。が、作成のためお祈りください。」

【CS局より】



小5～6年生という設定ですので、執筆者の先生

方も、つい難しくしてしまうところがあるかと思っています。幼稚っぽくならないようにしながら、なお、興味深く、子どもたちの心に届くものになればと願います。

やういふ

『牧羊者』がより良いものになるためには、利用者、執筆者、CS局が、一致協力してチームとして前進することが必要です。共に苦労しつつ進みましょう。

聖書 ルカ8・4～15 テーマ み言葉をどう聞か

序論

(高橋)

このたとえは、「種まきのたとえ」というより、「種がまかれた土地のたとえ」と言った方が良いでしょう。イエスは、群衆にみ言葉を語っておられたのですが、聞いている彼らの心の状態をよくご存じでした。そして、聞いている彼らの心は四種類あり、それらを見言葉の種が落ちた四種類の土地(土壌)にたとえて解き明かされました。

今も、み言葉を聞く人の心は、四種類あるのです。

一、道ばた——無関心な心、固い心(5、12)

み言葉の種がまかれても、地に入っていないままです。土地が踏みつけられていて固いのです。そのうち悪魔が来て、その種を奪ってしまいました。しばしば、聞き手は無関心です。み言葉(福音)を聞いても、自分の人生とは関係がなく、それが無くて十分やっていけると考えています。固く閉ざされた心を持つ人もそうです。あくまでも自分の考えに固執し、真理を受け入れることをしません。真理に対して心を開かず、むしろ固く閉ざしています。傲慢、無知、偏見と誤解、頑なさや冷やかな心です。これらは、まことに厄介な心だと言わざるを得ません。

二、土の薄い石地——浅い心(6、13)

聞いた時は喜んで受け入れるのです。すぐぶる反応が良いのです。しかし、長続きしません。その土地が石地だから根を下ろすことができないの

です。それで、太陽が上るとたちまち枯れてしまいます。詩篇1・3とは正反対です。

多くの人が感激して、喜んで救いを受け入れ、信仰の道を歩み始めますが、信仰生活の初歩で止まり、なかなか成長できません。すべてを投げうってキリストに完全に明け渡し、服従する時にのみ、魂は安全なのです。信仰は一時的な感情の高揚だけでは続きません。感覚的な信仰を求めていくなら、必ず行き詰ってしまいます。日ごとに見言葉に聞き、み言葉に根差し、み言葉を生活に適用して、地道に従い続けることが肝要です。

三、いばらの生える地——

迷う心、煩雑な心(7、14)

受け入れ、根を下ろし、成長するこの土地は、本来は良い地なのです。しかし、まかれたのはみ言葉の種だけでなく、悪魔がまいた他の種(雑草)も入り込んでいました。どちらも同時に成長するのですが、周りの雑草のほうが早く大きくなり、み言葉の種の成長を阻んでしまいます。その結果、雑草に土壌の栄養をすっかり奪われて、枯れてしまったのです。

私たちが主のための時間を残さないで、その生活を他の多様な興味で(たといそれが罪の類ではなく、むしろ良いものであっても)満たすことはたやすいことです。生活が煩雑になればなるほど、それが本当に必要なもの、正しいことなのか、よく考えてみる必要があります。あまりに多くの物事が、主を「心の王座」から追い出そうとしているのです。私たちの生活を整理しなければなりません。

せん(1ヨハネ2・15、ヤコブ4・8)。

四、良い地——み言葉をしっかりと受け入れ、豊かに実を結ぶ心(8、15)

良い地とは、種が成長して実を結ぶまでに至る、きれいな(手入れされた)、深く耕された良い土壌です。このような心は、放っておいて自然にできるものではありません。豊かな実を結ぶために次のことをするよう教えられます。

①聞く。「聞く」ということは、「聞こう」としなれば出来ないのです。主は「声をあげて」「聞く耳のある者は聞くがよい」と言われたのです。

②受け入れる。主のメッセージを聞く時、私たちは本当に心に受け入れなければなりません。真理が私たちの心を傷つけることがあります。聞きたくない真理に対して心を開けることがあつてはなりません。

③行動に移す。たとえの中の実りは、三十倍、六十倍、百倍になりました。福音の真理は常に行動に現れ、必ず具体的に表れてくるのです。

聞き、受け入れ、大胆に従いましょう。

結論

まかれた種の四つのうち、三つが駄目になりました。がっかりです。失望します。しかし、残された一つが豊かに実を結びました。しかも、先の三つの種を失っても余りあるほど豊かな実りを結んだのです。忍耐しつつ、望みをもって種を蒔き続けましょう。驚くほどの収穫が約束されているのですから。

研究資料

(中島)

この箇所、イエスは種まきのたとえを語り、自らその説明もしている。種とは「神の言(1)」である。その種が、まかれる土地の種類によって、異なる結果を生むのである。イエスがこのたとえを通して伝えようとしていることは、人が神の言を聞いても、その心が「良い地」でなければ、「神の国の福音」(1)の恵みにあずかることはできない、ということである。この時、大勢の群衆が神の国の福音に関心を持って集まっていた。このたとえは、彼らに「向けて」語られた。それは「悪い地ではなく、良い地としてみ言葉を受け入れよ」との勧め(あるいは警告)であった。同時にこのたとえは、彼らに「ついて」語られた。イエスは、後に宣教を担っていく使徒たちに、彼らが福音を伝える相手がどんな相手であるかを教えた。皆が実を实らせるわけではない。実をつけずに終わる種も多いだろう。しかしそれは種が悪いのではなく土地が悪いのである。み言葉の種は、悪くないどころか、最高の種、圧倒的な収穫高をもたらす種なのである。神の国は「かし種」のように大きくなり「パン種」のようにふくらむのである(ルカ13・18、21)。ところで、この種まきは、非常におおらかなまき方をしている。世の中の一般の種まきでは、良い地のみに無駄なくまいて、より多くの収穫を得ようとするであろう。しかしみ言葉の種まきはそうではない。み言葉の種は、「御言を宣べ伝えなさい。時が良くて悪くても…」(Ⅱテモテ4・2)とあるように、状況や相手の状態にかかわらず、まき続けられねばならない。

その種が内包する圧倒的な生命力のゆえにである。

テキスト

4 大ぜいの群衆が集まり： イエスは各地を巡回して福音を伝えた(1)。その結果として、これだけ多くの人たちが集まったのであろう。

8 百倍もの実 当時のパレスチナでは7〜15倍(平均10倍)の実りが普通であったようである。百倍は、ごく一部の肥沃な地域ではあり得ない数字ではなかったが、極めて良い収穫であった。イサクが神の祝福によって得た百倍の収穫を念頭に置いた数字かも知れない(創世記26・12)。

聞く耳のある者は聞くがよい 表面的にはなく、より深い意味で聞くこと。まさに良い地としてみ言葉に真実な応答をせよということである。

10 奥義 神の国の真の性質。ほかの人たち 弟子でない者、信じない者を指す。見ても見えず、聞いても悟られないために これはイザヤ6・9からの引用(使徒28・26にも)。イエスが意図的に神の国の奥義を隠しているような印象を受けるが、そうではない。[ギリシヤ]は、通常は目的「ため」を表すが、「結果として」となる(原因)の意味もある。「十字架の言は、滅び行く者には愚かであるが…」(Ⅰコリント1・18)とあるように、福音は両刃の剣である。たとえも同様で、信じる人には奥義を悟らせるものであると同時に、そうでない人には、本当に目を向けるべきものから目をそらす機会を与えるものである。いずれにせよ、神がある人々を締め出すのでは決してなく、先行するのは人の側からの拒絶である。そしてそれは予期せぬ事ではなく、イザヤを通して先に預言されていたことなのである。

12 道ばた 表面が固く、種は地中に潜り込めない。み言葉を聞いても、信仰による応答をしないので、悪魔がたやすくそれを奪い取っていく。

13 岩の上 表面に土をかぶっており、見た目は良い地と変わらない。根が無い 支える力よりむしろ、水気(6)を得られないことが問題。信仰によってキリストの命にあずかり続けねばならない。それがないので、**試練の時が来ると、信仰を捨てる**のである。家のたとえでは、岩は信仰の土台であったが、種の場合は逆で、岩地の種は砂の上の家と同じと言えよう(マタイ7・24以下)。

14 いばらの中 そこには他の植物(いばら)も育っており、それが良い種の生育を阻む。生活の心づかいや富や快楽 人はこれらのものと神とを並列して、両方に仕えることはできない(マタイ6・24以下)。心の中に二種類の種を育てることはできないのである。そのような人は、悲しいかな、**実の熟するまでにならない**のである。

15 御言を聞いたのち、これを正しい良い心でしっかりと守り、耐え忍んで実を結ぶに至る人たち 先の三つにならわず、み言葉を信仰によって堅く保ち続ける人である。「耐え忍んで」とは、試練があることを示している。しかしその試練をも信仰をもって乗り越えられることこそが、クリスチャンの特権である。そしてその実りは、他では決して得られない、すばらしい恵みなのである。

参考文献 注解書 E. F. Ellis(New Century Bible), I. H. Marshall(NIGTC), J. Nolland(Word) 等。その他 The IVP Bible Background Commentary:NT

聖書

ルカ8・4～15

タイトル

四つの種の冒険とその秘密

ほかの種は良い地に落ちたので、はえ育って百倍もの実を結んだ。

目 標

聞いたみ言葉を信じ受け入れ、実を結ぶ者となる。

ルカ8・8

導入

(松浦み)

夏にはいろいろな花が咲きますね。朝顔を育てている人はいますか？春に種をまいて、水をやりお世話すると、初めはハートの形の双葉が出てきます。次に本葉が出てつるが伸び、やがてつぼみがついてきれいな花を咲かせます。でもその種が道に落ちたり、草むらに落ちたら、花を咲かすことはできませんね。今日はイエス様のお話された四つの種の冒険物語です。お話に出てくる種はどうやら麦の種のようにですよ。

四つの種の冒険

お百姓さんの手ににぎられた麦の種はどんな冒険をしたのでしょうか。(ミレーの「種まく人」の絵があれば、種まきの様子の理解を助けます。)

パツと勢いよくまかれた種の一つは、道端にころがり落ち、踏まれてしまいました。「アイタタッ、ヒエッ」というまもなく、小鳥にパクツと食べられてしまいました。

同じくパツとまかれた二つ目の種は、石ころのころろろしているところに落ちました。「ゴッソ、アッ、イタタア…」、でも土があるのですぐに芽を

出しました。ところが、石ころばかりで根を伸ばすことができません。水もありません。とうとう枯れてしまいました。

パツと勢いよくまかれた三つ目の種は、畑の外れまで飛んでいきました。そこはとげのついたばかりが生えていて、他にも雑草が茂る土地でした。でも土もたくさんあるし、種は一生懸命地面にもぐりこみ、やがて芽を出しぐんぐん育っていきました。ところが、いばらや雑草はさらに力強くぐんぐん伸びるのです。そのうち、日陰になって太陽の光も届きません。水も栄養も雑草に取られてしまいます。一生懸命伸びようとするのですが、ついに「あーモォーだめだあ」と力尽きて、とうとう枯れてしまいました。

四つ目の種はどうなったのでしょうか。この種は運よく、よく耕された畑にまかれました。柔らかい土の中で、ゆつくり、むつくりと育っていきました。水を吸い、太陽の光に照らされグリーンと大きくくなりました。「アー、なんて気持ちがいいんだろう！」すくすく伸びてやがて実を結び、三十倍、六十倍、百倍と、たくさん麦がとれました。お百姓さんはとても幸せでした。

聞く耳のある者へ

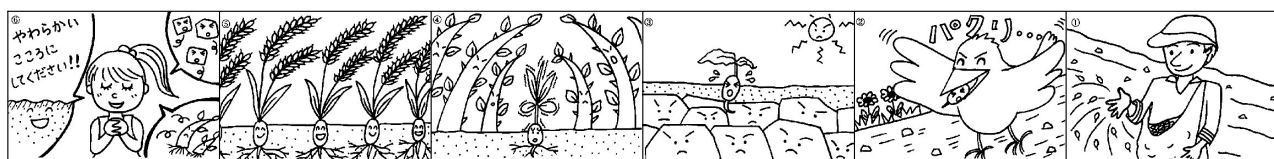
弟子たちやお話を聞いた人々は種があちこちに落ちたことはわかりましたが、イエス様の伝えたいことが「なるほど、ガッテン」とはわかりません。そこで弟子たちは「イエス様、それはいったいどういう意味ですか？」と尋ねました。そこでイエス様はその秘密を解き明かしてくださったのです。種

は「神の言葉」のことです。種の落ちた場所はいろいろな人の心の状態を表しています。第一の道端は、硬くて、狭くて、頑固な心を表しています。「神様の言葉なんて、聞いても仕方がない！」と受け入れようとしません。第二の石地は、み言葉を聞いた時「あつ、そっか」と喜んで受け入れますが、困難が起ると「モーやくめた」と、イエス様からも教会からも離れてしまうような人の心を表します。第三のいばらの中は、この世の誘惑や楽しみごとに心が奪われ、実を結ぶことができない心を表します。み言葉を受け入れているのですが、「友だち付き合っても大事だし、DSも面白くてやめられないし…」と言っているうちに、心の王座からイエス様を締め出してしまつて、日々のことに振り回されて流されてしまふ人のことです。第四の良い地は、聞いたみ言葉を心にしっかりと受け入れる心を表します。そして、「イエス様が喜ばれることは何かな？」とよく考えて、どんな苦しいことや困難が起こつても、イエス様に喜ばれる道を選び取る人々のことです。

まとめ

あなたの心の秘密、わかりましたか？多くの実を結ぶ、良い地のような心を持ちたいですね。良い地の心は、石ころやいばらや雑草が取り除かれた柔らかい心です。イエス様を心に信じて、素直な心でみ言葉に従いましょう。そうするなら神様ご自身が、あなたもびつくりするぐらいに豊かに祝して、実を結ばせてくださいます。柔らかな心を祈り求めましょう。

♪むぎのたねまきます♪(日キ・こどもさんびか71)



聖書 ルカ10・25〜37

テーマ 近寄り助ける

序論

(高橋)

イエスは、強盗に襲われて傷つき倒れている人を助けたサマリヤ人の話をされました。このたとえを通して、イエスは何を教えておられるのでしょうか。

現在は京都府大山崎にある、特別児童養護施設「水上隣保館」のモットーは「愛ある働き人」です。創立者の中村遥の言葉が、今も大切に伝えられています。この方は牧師でしたが、大阪湾に浮かぶはしけの上で生活している子どもたちの惨状（しばしば、幼い子が海に落ちて死ぬことがあった）を見て、じつとしておられず、引き取ってお世話をしたのがその働きの始まりです。

一、隣人になる（29、36）

「愛」の反対語は「無関心」だと言われます。金持ちにとって、玄関前に捨て置かれていたラザロは、見慣れた日常の一光景に過ぎませんでした。不正もなく、家族愛の情も持つこの金持ちが、なぜ裁かれて地獄に落ちたのかについて、わからないところがあります。しかし、有り余る賜物と機会を持ちながら、それを自分と自分の家族だけのものとしてしまった彼は、隣人に対する愛について問われたのだ…と考えるべきでしょう（ルカ16・19〜31）。

「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」とあります」と答えた律法学者は、律法の正しい心を読み取っていました。しかし、イエスに「そのとおり行いなさい」と言われて、自分の立

場を弁護しようと、（わたしの隣り人とはだれのことでか）と、うそぶきました。

律法を学びながらも、それを教理化するだけで、行わなくても良しとする者に命はありません。永遠の命を得る決め手は（そのとおり行いなさい）なのです。隣人になるためには、改めて愛が問われ、従う覚悟が必要です。

二、目と心が開かれる（31〜34）

真の隣人となるには、目と心が開かれなければなりません。見て見ぬふりをして通り過ぎた祭司とレビ人には、正当な理由があったかもしれせん。確かに、彼らは神の聖なる務めに就く者でしたから、その身は汚されてはならなかったのです。しかし、本当の理由は、目の前の傷つき倒れている気の毒な人に対して、彼らの心が開かれていなかった、ということでした。それだけではなく、（この人を見ると向こう側を通って行った）とあるように、その人から目を避けて、わざと見ないようにしたのでした。

かわると面倒になり、犠牲を払うこと、大切な自分の時間をとられることを嫌って、その心を閉ざしたのでした。その心情は、私たちにもよく分かります。私たちも同じような経験をしているからです。面倒を避けるための言い訳もできるでしょう。しかし、ここでは、目にしたのに、あえて目を避け、愛の心を閉じてしまったことが問われているのです。私たちクリスチャンにも、自己中心性丸出しの日常生活、この律法学者のような自分を正しいとする高慢と偽善の生活が問われています。

るのではないのでしょうか（29）。

三、イエスの救いを覚えて

「キリストは、…わたしたちが罪に死に、義に生きるために、十字架にかかって、わたしたちの罪をご自分の身に負われた。その傷によって、あなたがたは、いやされたのである」（1ペテロ2・22〜24）。

私たちにとって、良きサマリヤ人はイエスです。イエスは、罪によって傷つき、倒れ、滅びゆく私たちを決して見過ごしにしませんでした。目を留め、憐れみ、引き受けて、十字架の上にその尊い命を贖いの代価として惜しげもなく捧げてくださいました（詩篇103・2〜5、ローマ5・6〜8）。

私たちこそ、大いなる憐れみを受けた者です。み言葉と聖霊によって、主の愛と憐れみを新たに覚えさせていただきます。主は（あなたも行って同じようにしなさい）と言われました。私たちも、主の愛に押し出され、主の心と目をいただいて、心と目が開かれた者となりましょう。そして、遣わされた所で、様々な出会いの中で、人々の良き隣人として具体的に仕えていく者とされましょう。

結論

私たちは、子どもの心と彼らの背後を本当に見ているでしょうか。しばらく休んでいる子ども、日頃、問題を感じている子ども、苦手な子どもの真の姿を見つめましょう。彼らと背後の家庭や友人関係に目を留め、目を凝らし、見るべきものや事柄に目が開かれるよう、祈りましょう。委ねられた者たちのために、主の愛と憐れみを注いでいただいて、「愛ある働き人」とされましょう。

研究資料

(中島)

「心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ」(27、申命記6:5参照)。「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」(27、レビ19:18参照)。これらは律法の縮図と言われる。この「良きサマリヤ人」の箇所では、特にこの後者(対人律法)が取り扱われ、前者(対神律法)については、続く38〜42節のテーマとなっている。これらが律法の縮図であることは、当時も広く認識されていた。しかし知っていることと行うことは違う。専門家である律法学者でさえ(だからこそ言うべきか?)、永遠の命を得る方法がわからずにいたのである。だが、「わたしの隣り人とはだれか」(29)という質問がそもそもの外れであった。「隣り人」とは永遠の命を得るための何らかの行為の対象ではない。イエスが「だれが…隣り人になったと思うか」(36)と問うたように、自分とその人との関係性、すなわち生き方を指すものである。

テキスト

25 イエスを試みようとして 悪意ある挑戦とは限らない。続く質問はユダヤ神学の一般的なテーマであり、教師と呼ばれる人に神学討論を挑むことも一般的であった。**何をしたら永遠の生命が受けられましょうか** 動詞の時制(不定過去)から、彼が、何らかの一回の行為で、永遠の生命を受けることができると考えていたことがわかる。

28 あなたの答は正しい。そのとおり行いなさい。 そうすれば、いのちが得られる イエスは律法学者

者の答えを認めつつ、実際に律法に従って生きることが永遠の生命を得るための条件だと示した。

29 自分の立場を弁護しようと思つて 彼は自分で問うた質問に、自分で答えたことになる。しかし、それでは「あなたが人々に教えていることを、あなた自身が実践しなさい」と言われたのと同じで、面目が立たない。そこで彼は、**わたしの隣り人とはだれのことですか** と、隣り人の定義、言い換えれば愛を示すべき範囲について問い直した。それは愛を示さないでよい相手もいるという考えに基づく。実際、当時のユダヤ教では、隣り人と言えは普通、イスラエルの同胞だけを指した。

30 エルサレムからエリコに下って行く途中 エリコはエルサレムの27km北東で、標高は千mも低かった。祭司職の半数がこの町に居住していたと言われる。**強盗どもが彼を襲い…** その道には砂漠や岩場が多くあり、強盗がよく出没した。

31 祭司がその道を下ってきた 下り方向なので、祭司の勤めからの帰りであろう。強盗に警戒する必要はあったろうが、仕事のために急ぐ必要はなかった。**この人を見ると、向こう側を通過して行った** 祭司は特に、死体の汚れを避ける必要があり、影に触れてさえ汚れるとされていたので、反対側を通ったのであろう。まだ息があれば律法に従って憐れみを示す必要があった。しかし彼は(言葉は悪いが、幸いにも)死んでいるように見えた。祭司は、彼が生きていることが判明すると面倒なので、確かめることをあえて避けたのかも知れない(これでもかなり好意的な解釈である)。

32 同様に、レビ人も… レビ人についての規定

は、祭司ほどは厳しくなかったが、彼もまた汚れと面倒を避けるため、祭司と同じようにした。

33 あるサマリヤ人が ユダヤ人はサマリヤ人を宗教的な理由で蔑視していた。その結果、お互いの間の憎悪は根深く、実際もなかった。**彼を見て気の毒に思い** サマリヤ人にも死体に触れれば汚れるという概念があった。けれども彼は、当然優先すべきこととして、律法を守り、憐れみを示し、この人を助けるための行動をとったのである。

34 オリブ油とぶどう酒 前者は傷薬、後者は消毒薬として、一般的に組み合わせて用いられた。

35 デナリ二つ サマリヤ人は人が人に最低限の処置をしただけでなかった。二デナリ(労働者の二日分の賃金に相当)あれば、かなりの日数世話を受けることができる。さらに費用が余計にかかったときも、その支払いを保証したのである。

36 だれが…隣り人になったと思うか 隣り人とは定義するものではない。私たちのなすべきことは、自分が誰かの隣り人になることなのである。

37 その人に慈悲深い行いをした人です 律法学者は「サマリヤ人」と答えずに遠回しに答えた。しかしその答の中に隣り人の本質が表されている。すなわち隣り人とは慈悲深い行いをする人なのである。**あなたも行つて同じようにしなさい** 慈悲を与えるにしても、受けるにしても、民族や差別といった垣根を越えねばならない。他でもないイエスご自身が、あらゆる垣根を越えて、取税人や罪人たちの隣り人となられた。そのお方が權威をもって、このように命じられるのである。

参考文献 7月4日分と同じ。

聖書
タイトル
暗唱聖句

ルカ10・25〜37

隣り人になった親切なサマリヤ人
この三人のうち、だれが強盗に
襲われた人の隣り人になったと
思うか。

ルカ10・36

目 標
キリストの救いを知る者として、
人々に近づき助ける者となる。

導入

(松浦み)

暗いニュースが多いですが、今年の一月、心があたたかくなる出来事がありました。埼玉県川越市の中3の女生徒が、石川県輪島市にある高校を受験したのです。受験日の前日に家を出て、新潟県の長岡駅で夜行列車に乗り換え、輪島に行く予定でした。しかし大雪のため列車は運休止、途方にくれました。しかし「絶対あきらめないぞ」と、母と二人で雪道を歩き始めました。百五十cmもの積雪のため、車道にできたわだちをてくてく歩きました。一時間後にたどり着いたガソリンスタンドに、一台のトラックが止まっていました。わけを話すと運転手は「金沢までなら」と、乗せてくれることになりました。夜中走り続けてやっと空が白み始めたころ金沢に着きましたが、親切な運転手は仕事の予定を変更して「よし、輪島まで行っちゃる」と言って、次々と車を追い越し、集合時間の10分前に到着。運転手は「がんばれよ」と励まして連絡先も告げずに去って行ったそうです。高校は親切な運転手を探し出し、合格したことを告げたところ「ああ、良かった」と心から喜んだという実話です。

親切なサマリヤ人

イエス様が、ある学者の質問に答えられたお話です。一人の旅人がエルサレムからエリコに向かつて旅をしていました。そこは岩だらけの山道で、昼でも強盗が出る場所です。「さあ、早く通り抜けよう!」と旅を急いでいる矢先、岩の陰から強盗どもが飛び出してきて、「おい、こら、まてえ」と襲ってきました。ボコボコに殴り倒され、着ていた服も持ち物も全部奪い取られてしまいました。旅人は倒れ、立ちあがる力もありません。「だれか助けてくれないかなあ」とぐったりしていると、コトコトと遠くから足音が聞こえて来るではありませんか。「ああ、助かったあ」と思っただけで待つていて、足音がだんだん近づいてきます。祭司でした。この人は神様の教えをみんなに教える人です。「ああ良かった」と思った瞬間、祭司はどうしましたか」と声もかけずに、道の向こう側を足早に過ぎて行ってしまうました。もうがっかりです。ぐったりしていると今度はレビ人が通りかかりました。この人も神殿で神様の仕事をしている人でした。この人も旅人を見ると「あつ、こんなところでぐずぐずしていたら、私まで強盗にやられてしまう」と思って、道の向こう側を急いで行ってしまうました。

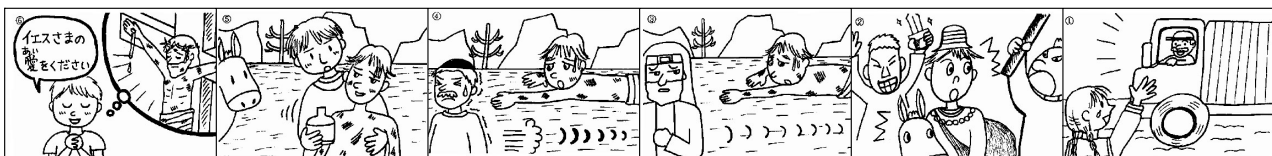
旅人の耳にまた足音が聞こえてきました。今度は来たのはサマリヤ人です。ユダヤ人は昔からサマリヤ人とは仲が悪く、互いに敵のように思っていたのです。ところがこのサマリヤ人は、倒れている旅人を見つけるとすぐにそばに駆けつけてきて、「かわいそうに! もう大丈夫ですよ」とやさしく声をかけました。それだけではありません。「まあ、

なんというひどい怪我を!」と言いながら、薬をつけ、包帯を巻いてくれました。それから自分が乗っていたろばに乗せて、近くの宿屋まで連れて行きました。そして宿屋の主人に言いました。「この人のお世話をお願いします。私は、大事な用事があって急いでいるので、ここにお金を置いていきます。帰りにまた寄りますから、足りない分はその時支払います」と言って、名前も告げずに去っていったのです。なんと親切な人でしょう。

隣り人はだれか?

三人のうちだれが強盗に襲われた人の隣り人になったでしょう。サマリヤ人ですね。イエス様は質問をした学者にも、私たちにも「あなたも行って同じようにしなさい」とおっしゃいました。お話を通して、互いに愛し合い、助け合うことがどんなに大切かがわかりましたね。

たとえ自分が損しても相手のために良いことをしてあげるのが本当の愛です。今あなたには嫌いな人や憎んでいる人、仕返ししたい人がいますか。イエス様は言葉だけでなく実際に十字架にかかって「父よ、彼らをおゆるしください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」と祈ってくださいました。私たちが罪と滅びの中から助け出してくださいます。私たちもイエス様にならって他の人に親切にできるよう、助けることができるよう、「イエス様、あなたの愛を私にもください」と祈りましょう。言葉の人でなく行動の人になりましょう。♪愛をください♪ (友よ歌おう74)



聖書 ルカ15・11～24

テーマ 神に立ち返る

序論

(高橋)

主イエスは放蕩息子^{ほうとうむすこ}の話」として知られるたえを話されました。この話を通して、私たちの本当の幸せは神にあることを教えておられます。20節の「父は彼をみとめ、哀れに思つて走り寄り…」から、羽鳥明師は、「走り寄る神」という題の小冊子を書かれました。この物語ほど、悔い改める罪人に対する神の愛を豊かに現しているお話はありません。

一、迷える人―神様から離れて(13～14)

弟息子は、父から受け継いだ財産を早速お金に換えて、父を離れ、遠い異邦人の国へ行き、そこで放蕩に身を持ち崩してしまいました。そこには人を墮落させる誘惑と環境がありました。さらに何もかも浪費した後、その地方にひどい飢饉^{きん}(自然災害)が起きました。頼る人もいなくなり、彼は食べるためにあえて豚飼いにまで身を落とし、ます。そして、ついに飢え死にを覚悟しなければならぬ状況に陥りました。こんなはずではなかったのに、何が問題だったのでしょうか。誘惑に満ちた悪い環境、あてにならない表面だけの人間関係、突然起こった自然災害、等々。しかし、一番の問題は、父を無視した弟息子の自己中心な生き方でした。父の心を知らず、父との関係を煩わしく思い、父から離れた時から、滅びの道を歩み出していました。多くの人が求めてやまない「自

由」と「時間」と「お金」を手にしても、神から離れていると、行きつくところは「絶望」です。

二、方向転換(15～19)

〈そこで彼は本心に立ちかえつて…〉。自分を見つめることは、うまくいつている時には難しいものです。もはやどうすることもできず、本当に行き詰まりを経験したとき、初めて謙虚に自分を見つめる可能性が開かれてきます。だれでも行き詰ることがありますが、その原因を他人や環境のせいにしても何もなりません。他人を責める矢はいつも自己憐憫^{じこれん}という弓から射られます。神の前に正直になつて、自分の弱さや罪深さを直視し、心砕かれ、謙ることです。御父の憐れみを求め、ありのままに父に祈りましょう。そして、父と向き合う関係に立ち返りましょう。

弟息子は本心に立ち返り、悔い改めました。(父よ、わたしは天に対しても、あなたにむかつて、罪を犯しました。この正直で砕かれた魂の告白は、彼の確かな人生のターニングポイントになりました。「こころの貧しい人たちは、さいわいである。」

(マタイ5:3)

「あなたはどこから落ちたかを思い起こし、悔い改めて初めのわざを行いなさい。」(黙示録2:5)

三、待つておられる神(20～24)

20節以降に、父が帰つて来た弟息子をどのようなようを迎えたかが記されています。「いまごろになつて、どの面^{おもて}して、よくそのような状態で…」と、父が少しばかり愚痴^{ぐち}つたとしても当然です。しかし、驚くべきことに、ここには父の責める言葉も、咎^{とが}

める態度も全く出てきません。むしろ、父の愛と憐れみが溢れ出ています。

父は、変わり果てた姿の息子を遠くからいち早く認め、途端に憐れみの思いに突き動かされ、走り寄り、首を抱いて接吻しました。弟息子が考えに考えた、とつておきの弁解の言葉も、父の耳には聞えません。そして、新しい生活のために備えられていた着物(新しい品性)を着せ、指輪(子としてのしるし)をはめさせ、はきもの(新しい歩み)を与えました。さらに、「喜んでくれ、この息子が死んでいたのに、生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから」と祝宴を備えて、父の喜びを共にしてくれるよう、願うのです。

何と言う父の愛でしょうか。私たちが悔い改めて、父の許に帰るなら、すでに父の側では一切の備えが出来ています。私たちの救いは、十字架の上にすでに完成されています(ヨハネ19:30)。私たちの信仰は、キリストの完成された救いのみわざにと与るところから始まるのです。

結論

私たちが本心から悔い砕かれ、思い切つて神に立ち返ることを、父はどんなにか待つていてくださることでしょう。神に立ち返るとき、父なる神は責めることも、恥ずかしめることもなさらず、むしろ、大喜びして私たちを迎え、受け入れて、新しい出発の一切を備えてくださるのです。

主は、待つていて恵みを施されるのです。この父の許に、いつも悔いた砕かれた魂をもって、立ち返りましょう。

研究資料

(中島)

「失われたものを探す熱情と見いだす喜び」が、百匹の羊、十枚の銀貨、放蕩息子と三連続するたとえの共通テーマである。これらのたとえが語られた理由は、イエスが罪人らと交わりを持つていることをパリサイ人たちが批判したからである。三つのたとえは、その批判への答えであった。放蕩息子は父の愛に背を向けて罪に走った。では兄はどうか。彼は、弟に対する父の扱いに腹を立て、父が催す宴会に入ろうとしなかった(28〜30)。それはとるべきでない極めて非礼な態度であり、罰に価するものだったのである(今、目の前にいるパリサイ人たちの態度がまさにそれであった)。しかし父は彼を優しくなだめ、共に弟の帰還を祝うようにと諭した。たとえの中で、兄の応答はあえて語られていない。これを聞いたパリサイ人たちが、そして後世の読者がどう受け止め、答えるか、そのチャレンジがなされているのである。

テキスト

11 ふたりのむすこ 25節まで出番はないが、最初から兄の存在に言及されている。第一義的には、批判者たちに向けて語られているのである。

12 あなたの財産のうちでわたしがいただく分をください 父親が生前に、息子たちの分け前を定めておくことは一般的であった。けれどもその権利は父の生存中は移らない。それなのに、弟はそれを求めたのである。それはまるで、父を死んだ者と見なすような非礼な行為であった。たとえ生前分与が認められたとしても、息子は父に対して、

法的にも、道義的にも、果たすべき責任があった。**13 自分のものを全部とりまとめて** 「とりまとめる」(β'スナゴー)はここでは「現金に換える」の意であろう。生前分与された土地は、そこから得る利益を生きている父に還元する法的責任があったのに、弟はそれを売り払ってしまった。**遠い所へ行き** こちらは道義的責任を放棄する行為。「死んでいたのに生き返り」と24節にあることは、彼がもう二度と戻らないつもりで父との関わりを断ったことを暗示している。当時、多くのユダヤ人が成功を夢見て大都会に出ていた。彼にも一旗揚げようという意気込みはあったろう。しかし大金を運用する経験が乏しかった彼は、**放蕩に身を持ちくずして財産を使い果たした**のである。

15〜16 豚の食べるいなご豆 豚飼いはユダヤ人には忌むべき職業であり、その食べ物すらやむことは、墮落の極致であった。**何もくれる人はなかった** 羽振りがよいときの友は皆去った。雇い人も彼に正当な報酬をくれなかったのだらう。

17〜19 本心に立ちかえって 今の惨状がどこから始まったかを彼は振り返った。**食物のあり余っている雇人** 自分の雇い主の非道さから父の素晴らしさを思い出したのかも知れない。**わたしは天に対して、あなたにむかって、罪を犯しました** 受け継いだ財産を無駄に散財したこと、また果たすべき法的、道義的責任をおろそかにしたことなど、彼が父に対して犯したすべての罪は、当然神に対する罪でもあった。**あなたのむすこと呼ばれる資格はありません**… 相続を受けた時点で、彼はその他の全権利を失っていた。さらに先述の

全責任を放棄した彼には、当然息子と呼ばれる資格がないことは、本人もよく自覚していた。

20 そこで立って、父のところへ出かけた 彼はただ悔いるだけでなく悔い改め(『方向転換』)た。**まだ遠く離れていたのに** 父は日々息子の帰還を忍耐強く待っていた。**走り寄り** ユダヤ社会では年配者が衣の裾を上げて走ることが威厳を損なう行為であった。けれども、父は喜びの余り、そんなことを構っていられなかったのである。

22 しかし父は… 息子が言い終わる前から、父は彼を受け入れ、僕に指示を与えた。息子に走り寄ったことと合わせ、赦しは神の率先に基づいて行われることを示している。**最上の着物** その家の最上の着物は主人である父のものであった。**指輪** 家族の印が彫られた指輪で、息子としての地位回復を象徴。**はきもの** 奴隷ではなく自由人であることの象徴。また客が到着時に履き物を脱ぐのに対し、彼が家人であることも示している。

23 肥えた子牛 村全体にふるまえる量。豊かな家は、息子の成人や結婚の宴に、村全体を招待した。この時の喜びはそれほど大きかったのである。**24 死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから** 父との関係を断つて出かけた息子は、父から見て事実上、死んでいたのと同じであった。その息子との関係が再び回復されたのだから、父はこれほどまでに喜ぶのである。その喜びを、父はすべての人と分かち合いたいと願っている。ならば、家族である兄は、父の喜びを、当然自分のことのように喜ぶべきなのである。

参考文献

7月4日分と同じ。

聖書
タイトル
暗唱聖句

ルカ15・11～24

わがままな息子とお父さん

父よ、わたしは天に対しても、

あなたにむかって、罪を犯しました。
ルカ15・18

目標

悔い改めて神に立ち返る。

導入

(松浦み)

もうすぐ夏休みですね。休みには、こんなことしよう、あんなことしよう楽しい計画を立てているかもしれません。ある男の子は夏休みを利用して自転車旅行を計画しました。名古屋から北海道までです。計画を知ったお父さんもお母さんも心配でしたが、「気をつけて旅するんだよ」と送り出してくれました。しかし、元気に帰って来て顔を見るまでは、心配で夜も眠れないほどだったと話してくれました。自分を待っていてくれる人がいることはなんと幸せなことでしょう。

わがまま息子の願い

あるところにお父さんと二人の息子が暮らしていました。お父さんはお金持ちで広い農場を持ち、牛や羊をたくさん飼っていました。息子たちは雇い人たちと一緒に、畑仕事や家畜の世話をして暮らしていました。ある時、弟息子が「お父さん、財産の分け前を私にください！」と言い出しました。「何に使うんだね。お前はまだ若い。いずれはお前にもやるつもりだが、今はその時じゃない。待ちなさい」ところが、言い出したら聞かないわがまま息子のこと。お父さんはしぶしぶ分け前を

与えてやりました。「うふふつ。うれしいなあ、そうだ！町に行こう」。さつそく荷物をまとめて、弟息子はお父さんからもらったお金を持つて、出かけて行きました。

孤独な弟息子

初めて暮らす町には、楽しいことが一杯です。夜遅くまで灯りがともし、多くの人々がうようよしています。たくさんお金を手にした弟息子は、おいしいものを食べ、働きもしないで遊び暮らしていました。友だちもいっぱいでき、みんなでワイワイガヤガヤ過ごすうちにたくさんあつたお金も底をついてしまいました。すると潮が引くように友だちもみんな離れていき、一人ぼっちになってしまいました。その上、丁度そのころ、その地方にひどい飢きんがあり、働こうにも働き口は見つかりません。やつとのこと見つかったのは豚の世話をする仕事でした。毎日豚の糞にまみれて世話をしますが、お腹がすいて死にそうでした。「ブー、ブー、パクパクツ」と食べる豚を見て、豚のえさだつていいから食べたいと思いました。が、だれも何もくれません。ふと、弟息子の目から涙がこぼれ落ちました。「ああ、お父さんの家だったら、雇い人だつてお腹いっぱい食べられるのに。ぼくはここで飢えて死のうとしている」。

この時、はつと我に返りました。「ぼくはなんとわがままだったのだらう。そうだ、お父さんのところへ帰ろう。そしてこう言おう、『父よ、わたしは天に対しても、あなたにむかって、罪を犯しました』。さんざん好き勝手した自分は、到底ゆるしてもらふ資格はない。もう息子と呼ばれる資格

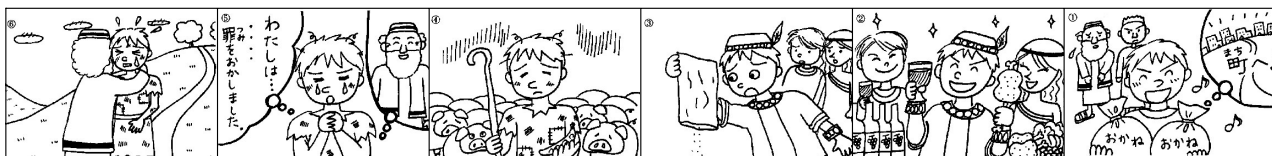
もない。雇い人のひとりにしてもらおう。そう決心した弟息子はお父さんの家を目指し、力を振り絞って歩き出しました。

待っていたお父さん

さて、お父さんは息子を心配し、毎日外に出ては帰りを待っていたのです。ある日、遠くの方から歩いてくる人影を見つけました。ぼろぼろの服を着て、よろよろしながら歩いていきます。「あつ、息子だ！」まだ顔が見えないくらい遠いのに、お父さんは待ちきれなくて走り出しました。「おお、よく帰ってきたなあ」。息子は「お父さん、わたしは天に対しても、あなたにむかって罪を犯しました」と心から謝りました。お父さんはその言葉をささげつて、しもべに命じました。「さあ早く、この子に最上の服を着せなさい。指輪を手にはめ、履物を足にはかせなさい。子牛を料理してお祝いしよう。この息子が死んでいたのでに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから」と。喜びのパーティーが始まりました。

神様は、このお父さんのようなお方です。家を出たわがまま息子は、私たち神様から離れた人間の姿です。愛の神様に背を向け、自分勝手に生きる人間を、いつかは帰ってくる待ちわびながら、大きな御手を広げて待っていてくださるお方なのです。いつでも、どこでも、父なる神様のもとに帰ろうと決心する時、罪人の私たちを走りよって抱きしめ、自分の子どもとして迎え入れてくださるのです。嬉しくて涙がこぼれます。さあ、私たちも父なる神様のもとに帰りましょう！

♪父なる御神に♪ (新聖歌449・1節)



聖書 創世記1・1～31 テーマ 天地創造の神

序論

(高橋)

聖書の冒頭、神が天地万物（人間）を創造されたことが記されています。私たち人間は、自分の存在の意味や価値、結婚、家庭、労働、その他人生の根本的な意義について考える時、どうしても人間存在に意味を与える創造者である神を知らなければなりません。

一、永遠のはじめである神（1）

〈はじめに神は…〉

創世記第一章1節は、聡明な創造者、万物の偉大な第一原因、天と地のすべてのことを工夫し、また指図されるお方がおられることを厳かに宣言しています。また、神の存在と宇宙の起源を主張する他のあらゆる論（神の存在や宇宙の起源はわからないとする「不可知論」、神の存在を否定する「無神論」、多くの神があると主張する「多神論」等）を明確に否定し、唯一の至高なる神の存在を明らかにしています（W・パーカイザー「旧約聖書の探求」）。

神は永遠のお方であり、神には始まりはありません。神はとこしえからとこしえまで存在しておられます（詩篇90・1～2）。

神の永遠から見れば、人間の一生は、どう生き、何を成し遂げたとしても、一瞬であり一点の存在でしかありません。そして、すべてが過ぎ去るのです。人間は、何という虚しい存在でしょうか。しかし、神はそのようなちっぽけな私たちの存在

を、ご自身との関わりの中で、意味付け、価値あるものとしてくださるのです。

「わたしはあなたの神、主である。イスラエルの聖者、あなたの救主である」（イザヤ43・3）。

「わたしは彼らをわが栄光のために創造し、これを造り、これを仕立てた」（イザヤ43・7）。

この神を信じることは、私たちの生活と人生における確かな価値観、人生観、世界観の土台となり、確かな人生を生きる大前提なのです。

二、全能の神（3）

〈神は「光あれ」と言われた。すると光があった〉。

神は、そのお言葉で天地万物を創造されました。人格的な存在であられる神が語られたみ言葉は、生きて働きます。それは、神ご自身から出て、神の本質を現し、神の意志の表現です。〈光あれ〉と、〈光があった〉とは、全く同じ言葉です。神が語られた言葉は、即、そのとおりに実現するのです。事実、神の天地万物の創造は、〈…あれ〉と神が命じられると、ことごとくそのとおりになったのです。無から有を生み出し、創造することが出来るお方は、神だけです。

「神が全能であるとの意味は、神が意図されたことは、すべてお出来になり、また、必ずなさると言うことです」（J・パッカー）。私たちはこのようなお方、全能なる神を信頼して生きているのです。

「人にはできないことも、神にはできる」（ルカ18・27）という信仰を、常に心に抱き、信頼して生きるものとなりましょう。とりわけ、神の全能の力が、「人間の救い」に関して働くことが、主イ

エスによって語られ、私たち信じる者に対して約束されていることに注目しましょう。み言葉に対する信頼を生きたものとされ、信仰を通して働かれる神様のみわざを、今も、身近に、拝させていただきましょう。

「われは天地の造り主、全能の父なる神を信ず！」

三、愛なる神（27）

神は、天地万物の創造の最後に、人間を造られました。しかも、ご自分のかたちに人を創造されました。神は人間を霊的、知的、道徳的な存在として造られ、何よりも、人間を交わりに生きる者として造られました。神との交わりに生き、人と人（男と女）との交わりに生きるものとして造られたのです。これは、三位一体の神の間にある豊かな交わりに似せて、交わりを習う者として造られたということです。ここに、神の愛に基づく人間創造があります。

人は神と交わり、又、神を中心として人と人との真の交わりに生きる時に、何にも代えがたい真の満ち足りた幸せを実感することができるのです。

結論

「天を創造された主、すなわち神であってまた地をも造り成し、これを堅くし、いたずらにこれを創造されず、これを人のすみかに造られた主はこう言われる、『わたしは主である、わたしのほかに神はない』（イザヤ45・18）。

永遠から永遠にいますお方にしつかり結びつき、全能のお方に信頼し、主イエスにある豊かな交わりに生きるものとされましょう。

研究資料

(中島)

テキスト

1 はじめに 初めと終わりは聖書を貫く論理の土台である。神はご自身の計画に基づいて万物を創造し、歴史を通じて人類(と万物)の救いを完成へと導かれるのである。この「はじめ」は、歴史のはじめであって、永遠の属性を持つ神がその「はじめ」以前から存在しておられたことは言うまでもない。聖書にはその「はじめ」以前についての言及がいくつかある(エペソ1・4、ヨハネ17・5、24等)。天と地 天とは人の量り知ることのできない広がりを持つものであるが、創造とはその全てを含むものである。創造された「バール」は神のみを主語として用いられる動詞。

2 地は形なく、むなしく 「(ト)フー(形がない)・ワ(接続詞)・ポーフー(何もない)。「地は混沌であって」(新共同訳)、「地は茫漠(ぼうぼく)として何もなかった」(新改訳第三版)。ここを(破壊の結果の)無秩序と考え、1節と2節の間に語られていない破壊があるとし、2節以下を再創造とする解釈があるが、もしそうだとしたら、聖書がそれについて全く言及しないとは考えにくい。ここは、1節で包括的に語られた創造を2節以下で具体的に説明しようとしていると解釈するのが自然だろう。「いたずらに(「ハ)ポーフー」これ(地)を創造されず、これを人のすみかに造られた主」(イザヤ45・18)とあることから、やがて人が住む地となることを念頭に、(創造の前で)まだ人が住めないような状況を示しているのかもしれない。やみが淵のおも

てにあり、神の霊が水のおもてをおおっていた淵や水が何を指すか諸説あるが、重要なことは、まだ形や命のない状態と、その上にある神の霊との対比であると言えよう。

3 神は「光あれ」と言われた 創造が何らかの素材や媒介によるのではなく、ただ神の言葉によることを、簡略かつ雄弁に示している。すると光があつた 表現された神の言葉は必ず実現するのである(ルカ7・7、8参照)。「やみの中から光が照りいでよ」(Ⅱコリント4・6)と言われた神が、「わたしたちの心を照」す光(同)の源でもあると、聖書は証言するのである。

5 光を昼と名づけ、やみを夜と名づけられた 名は実質を表す。光に昼、やみに夜という役割が与えられ、時間の区分ができた。第一日であるこれを24時間の一日とするには、初めの三日がまだ太陽の創造の前であるという問題がある。創造における「一日」をどう理解するかについては多くの議論があるが、重要なことは、一日の長さはどうであれ、神の創造のわざが深遠な計画に従って順序正しく、かつ秩序正しく(「種類に従って」11、12、21、24、25)、行われたということである。

26 われわれのかたちに、われわれにかたどって人を造り 「われわれ(複数形)」は父、子、聖霊の三位一体の神の本質の現れと見て良いだろう。人がその神のかたちに創造されたということは、様々な意味を含むだろうが、重要な一つは、人が神との交わりを持つ者とされていることであろう。「彼が現れる時、わたしたちは…彼に似るものとなる」(Ⅰヨハネ3・2)とあるように、キリスト

にある再創造(神との交わりの回復)がキリストの似姿をもたらすとされているからである。これに…治めさせよう これは「神のかたち」を持つ者への、神からの権能と責任の付与である。

28 生めよ、ふえよ、地に満ちよ 人が地上に増えることは祝福の結果であるが、ただ数量的に増えること以上のことが「地に満ちよ」という命令(勧告)には含まれている。すなわち、人は神が備えられた大きな恵みの広がりの中で、喜びの中に、他の人やすべての被造物と共存するべきであり、それがまさに祝福なのである。地を従わせよ それは専制君主的にふるまい、搾取することではなく、被造物の一つ一つが本来の目的を果たしうるように治めること。それによつて、すべてが最善の関係に生かされ、その結果、人は「地に満ち」ることができるのである。キリストによるならば、支配する者は仕える者である。良き羊飼いは羊のために生命を捨てるのである(ヨハネ10・11)。

31 それは、はなはだ良かつた 創造の節目ごとに「神は見て、良しとされた」と六回繰り返されたが、創造が完成した時、神は「はなはだ良かつた」と評価された。重要なことは、人間の歴史が一点の曇りもない創造の完成を出発点としていることである。全てのものが個々として良かつただけでなく、全体としてそれぞれのつながりも良かつたこと、その全体がまた神との関係において良かつたことが、ここに強調されているのである。

参考文献

舟喜信『新聖書注解・旧約Ⅰ』、W.Brueggemann (Interpretation)、その他 N.Sarna, Understanding Genesis.

聖書 創世記1・1～31
 タイトル 世界の始まり
 暗唱聖句 はじめに神は天と地とを創造された。
 目録 天地創造の神を信じる。

導入 (松浦み)

二〇一〇年四月五日、かつて星空にあこがれていた少女は、お母さんになって宇宙へ飛び立ちました。日本人宇宙飛行士・山崎直子さんは、七才の女の子のお母さんです。宇宙から見た地球の美しき、特に日の出、日の入りの光の輝きにびつくりした、と宇宙からコメントを送ってきています。このすばらしい宇宙、月、星、太陽、そして地球はどのようにしてできたのでしょうか。

はじめに神が

この世界はどのようにできたのかな？と考えるとき、「いつのまにか、偶然にできたんだよ」と言う人がいます。ほんとにそうでしょうか？あなたは毎日、時計を見るでしょう。「あつ、学校に行く時間だ！、友だちとボールの約束してたんだ」とね。この時計が偶然にできたという人はだれもいません。もしそう言うなら、「あんた、ちよつとおかしいんじゃない!？」と言われるに決まっています。時計は職人さんが材料を組み立てて作ったものだからです。ほらよく見てごらんさい。会社名が書かれているでしょう。でも、この世界の創造ということになると、「うーん」と考え込んでしまいます。その答えは、聖書にはっきりと書かれています。聖書の最初に、「はじめに神は天と地

とを創造された」とはっきり書かれていて、神が世界を創造されたことが宣言されています。

世界の創造

それでは、神様がどのように世界を創造されたのかを見ていきましょう。その前に、みなさんの周りを見てみましょう。いろいろなものがありますね。座っている椅子、着ている服、本など、どれ一つとつてみても、いろいろの材料を使つて人間が作ります。でも神様が世界を創造される時、材料は何もありませんでした。「えつ、どうしてつくるの?」と思うでしょう。びつくりしないですね。神様は、ただ「お言葉」だけで世界を創造なさったのです。お言葉は神様の意思であり、考えであり、お心なのです。

世界のはじめは、ただ真っ暗闇で、地は形なく神様の霊だけがありました。創造の一日目です。まず、はじめに「光あれ」と言われると光ができました。その光を見て「ああ、よくできた」と満足されました。そして光と闇とを分け、光を昼、闇を夜と名づけられました。

二日目です。「おおぞらよ、あれ」と言われると大空ができました。そして大空の下の水と大空の上の水とを分け、大空を天と名づけられました。三日目です。「天の下の水は一つ所に集まり、乾いた地が現れよ」と言われると、そのようになりました。乾いた地は陸と名づけられ、水の集まった所は海と名づけられました。そして、地に向かつて、「地は種類にしたがつて青草を生えさせよ」と言われると、大地からたくさんの草や木や実のなる果樹などの植物が生えてきました。

四日目です。「天のおおぞらに光があつて昼と夜

とを分け、地を照らす光となれ」と言われると、そのようになりました。昼には太陽、夜には月が輝くようになり、星もつくられました。

五日目です。「水は生き物の群れで満ち、鳥は地の上、天のおおぞらを飛べ」と命じられました。すると、海にはたくさんの魚が泳ぎ、空にはたくさんの鳥が飛ぶようになりました。

六日目です。「地は生き物を種類にしたがつていさせ」と言われると、家畜や這うもの、いろいろの動物などが種類にしたがつて創造されました。一番最後に、「さあ、この世界のすべてのものを治めよ」と言つて、人間を創造されました。そして、神様はご自分の創造された世界をみて、「これで良い」と満足なさいました。

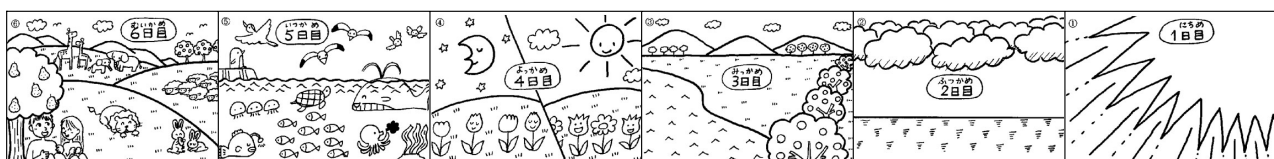
神様は人間を、他のものとは違う別の方法で創造されました。特別に神にかたどり、「神のかたち」に創造されたのです。それは、外見の姿・形が似ているということではありません。人間だけが神と交わりをもつことのできる「霊と心」を持ち、その「霊と心」が「神のかたち」に造られたということです。ですから、神様とお話ししたり、神様を礼拝したり、さんびしたり、お祈りしたりすることができるようですね。

「地の深い所は主のみ手にあり、山々の頂もまた主のものである。海は主のもの、主はこれを造られた。またそのみ手はかわいた地を造られた。さあ、われらは拝み、ひれ伏し、われらの造り主、主のみにひざまずこう」(詩篇95・4～6)。

創造主を、心からほめたたえましょう。

♪海と空つくられた主は♪

(インマヌエル・教会学校さんびか8)



聖書 ヨハネ4・19〜24

テーマ 神は霊である

序論

(鎌野)

先週から始まった「神」についての学びの第二回目である。神の絶対的屬性の「霊」という意味を、有名な「サマリヤの女」の物語から探ってみよう。主イエスはこの女性に①永遠の命に至る水という恵みを得るためには、②自分の罪を自覚した上で、③主が救い主であることを知る必要があることを示された。今日のテキストは、この③の部分であることを確認しておきたい。主は、彼女との問答の中で、真の神とはどういうお方であるかを教え、さらにご自分がその神から遣わされたメシヤであることを教えようとされたのである。

一、神はすべてを知っておられる

主イエスは、だれにも知られたくない彼女の素性をすべてご存じだった(18節)。そのことに驚いた彼女は「わたしはあなたを預言者と見ます」と言わざるを得なかった。最初、主が彼女に声をかけられたときには、単なる通りがかりの人物だと思っていたのだが、実はそうではないことに気づいたのである。神から遣わされた預言者しか、ひたすら隠していた自分の素性を知ることではできないという彼女の判断はあたっている。しかし、主イエスは預言者以上のお方であることを、この時点の彼女はまだ理解していなかった。

今でも、多くの人々は主イエスをただの人間、良くても道德の教師か、四大聖人の一人としてし

か理解していない。中には聖書をまじめに読むうになり、主の言葉によつて自分の罪ある姿に気づく人もいる。しかし、まだそれだけでは主イエスの本当の姿を悟ったとは言えないのである。

二、神はどこでも礼拝できる

彼女は、「わたしたちの先祖は、この山で礼拝をしたのですが、あなたがたは礼拝すべき場所は、エルサレムにあると言っています」と言葉をついだ。これは彼女の言い逃れかもしれないが、重要な問題を提起している。主はこれに対して、場所に関係なく、〈父を礼拝する時が来ていると答えられた。真の神は、ゲリジム山とかエルサレムとか、特定の場所でしか礼拝できないお方ではない。あるいは、犠牲の動物の種類とか、数とか、供え方の違いで、人の罪を赦すか否かを決めるお方でもない。どのような場所、どのような方式でも、真の神を礼拝することは可能なのである。

現代の教会でも、様々な礼拝スタイルがある。洗礼や聖餐(せいさん)の方式にも違いがある。世界に目を向けるならなおさらだ。アフリカの友人から、彼らの礼拝には太鼓が不可欠だと聞いて驚いた。しかし、世界中どこでも同じお方を礼拝しているのである。もはや律法が定める複雑な礼拝規定にしばられる必要はない。

三、神は霊である

続いて主は、「神は霊であるから、礼拝をする者も、霊とまことをもつて礼拝すべきである」と仰せられた。「霊である」とは、研究資料にあるよ

うに①非物質的、②目に見えない、③生きておられる、④人格である、という四つの特徴をもつ。だが、非物質的で目に見えない神が、生きておられて人格をもたれることをどうやって人に示すことができるのか。神ご自身が人となれること以外に、その道はあり得ない。主イエスがこの地上に誕生されたのは、まさにそのためだった。主は神であられるからこそ、彼女のすべてをご存じだった。そして、場所に関係なく礼拝できる時が〈今きている〉と言うこともできた。さらに、〈キリストと呼ばれるメシヤがこられる〉ことを知っていた彼女に、「このわたしが、それである」と宣言することもできたのである(25〜26節)。

二十一世紀の私たちは、主イエスを肉眼で見ることができない。しかし、天地を創造された父なる神を示すために人となられた主イエスを、聖霊なる神の働きによつて知ることができる。三位一体の神を〈霊とまことをもつて礼拝〉できるので、見える像にではなく、場所にも限定されず、礼拝の方式にも左右されないという「真理」(「まこと」はこのようにも訳せる)に基づいて礼拝できることを、心から感謝したい。

結論

神は霊であるから、同じ時に、世界中で礼拝することができ。また、主イエスが十字架で犠牲となつてくださったゆえに、もはや犠牲の動物はいらない。私たちの「からだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげ」ることこそ、「霊的な礼拝」なのである(ローマ12:1)。

研究資料

(宮澤)

先週から、単元「神」に入っている。「はじめに神は」(創世記1:1)とあるように、神はいらないか、信じるか信じないかという存在ではなく、神ははじめからこの世に神として存在されているお方である。では、この「神」のご性質は、という問いに答えるのが今週からの三回のメッセージである。この「神」のご性質のことを「属性」という。そして、その「属性」には、神ご自身の固有のご性質である「絶対的属性」と、神が被造物との関係において発揮されるご性質である「相関的属性」、その中でも特に人間との関わりにおける属性である「道徳的属性」とがある。

その中でも、聖書において神の絶対的属性が顕著に表されている点は「神は霊である」ということである。それは、まず ①神は非物質的なものであって形がないことをさす(ルカ24:39)。②神は目に見えない(ヨハネ1:18)。③神は生きておられる(マタイ16:16)。④神は人格をもつ。以上のようなことが明らかになる。そして、神は霊であるがゆえに、私たちは神と交わりを持つことができるのである。私たちがどこにいても、どこにいてもおられる絶対者である神と交わり、神に祈ることができる。これが、神の最も基本的なご性質であると言えるのである。

テキスト

この箇所は、1節より始まる「サマリヤの女」の物語といわれる箇所である。恐らく、中心聖句の箇所との整合性と、聞き手が子どもであるとの考え

から、今回の聖書の区切りとなったのであろう。しかし、言うまでもなく、1節から42節までの一連の流れの中で、本日の聖書は取り扱われるべきである。

19 この箇所から、サマリヤの女の心に大きな変化があったことが読みとれる。それまでのこの女性のイエスに対する認識は「主」(11)としてであった。この言葉は「先生」とも訳しうる語で、しばしば身分の低い者が高い者に向かって呼びかける言葉としても用いられる。しかし、19節に至ってこの婦人は「主」を「預言者」と呼んだのである。それは、イエスを「わたしのしたことを何もかも、言いあてた人」(29)として、この人の前には何一つ隠し仰せるものはないと悟ったからであらう。

20 19節の、この女性の心中の変化は、この女性を礼拝へと向かわせる。恐らく生まれて初めて自らの隠れた罪を指摘され、信仰の必要性を深く感じ取ったものと推測される。そこで彼女に「礼拝」への思いがわき上がったのであろう。しかし、彼女はそこで一つの「壁」にぶつかる。その壁が、先祖 という言葉によく表れている。人は自らの心の急所をつかれると、それを逃れようとして一般論を持ち出すものである。彼女もイエスの追及をかわすために、ユダヤ人とサマリヤ人の間を分離させてきた問題をイエスに尋ねることによって、自らの魂の問題を避けようとしたのであろう。この山 ゲリジム山のこと。サマリヤ人は、モーセがその後継者ヨシヤに与えた命令を根拠としてゲリジム山のサマリヤ神殿こそが正当な礼拝場所であると主張していた。

21 あなたがたが、この山でも、またエルサレム

でもない所で、父を礼拝する時が来る この女性の問題の中心は、それまでは礼拝の場所の問題であった。しかしイエスは、礼拝の場所もはや問題ではなく、すべての場所で父なる神に出会う道が開かれるというのである。

22 その一方で、イエスはサマリヤに対するユダヤ人の優位性を説く(ローマ9:4〜5参照)。しかしながら、新しい礼拝の場所は、もはやエルサレムに限定されることはない。

23 霊とまことをもって父を礼拝する時が来る イエスはここで、真の礼拝者のあるべき姿を示される。礼拝する場所ではなく、また礼拝する人種でもない。「霊とまこと」による礼拝こそが真の礼拝なのである。霊とまこととは、解釈の分かれる部分であるが、霊とは、人間の「肉」と対比される人間の根元的な部分を指す。霊によって礼拝するとは、それまでの儀式、供え物、犠牲などを通してなされる形式的、外見的、肉体的礼拝を否定し、心から礼拝することを意味すると考える方が妥当であらう。しかし、この「霊」を神の霊、聖霊と見る見方もある。まこととは「影」と対照される。キリスト以前には、人々は予型、影、象徴を手がかりとして礼拝した。しかし、キリストの到来によって、真実による礼拝の道が開かれた。ヨハネにおいて、アレーセイア(真実、真理)はキリストの中に表されているのである(ドット)。

24 以上の主張を受けて、礼拝者に対しての心備えが語られる。

参考図書 B・F・バックストン『ヨハネ傳講義』(バックストン記念霊交会) 他

聖書
タイトル
暗唱聖句

ヨハネ4・19～24
神様ってどんなお方？パートI
神は霊であるから、礼拝をする
者も、霊とまことをもって礼拝
すべきである。ヨハネ4・24
神は霊なるお方と知り、霊とま
ことをもって礼拝する者となる。

導入

(飯田)

皆さんは、夏休みをどのように過ごしていますか？プールに行ったり、海や山に行ったりと普段あまりできないことを体験するのが夏休みの良いところです。是非、大いに夏休みを楽しんでください。ところで皆さんの自由課題は何ですか？まだ決まっていないかな。では、「神様ってどんな方でしょう」という自由課題はどうかなあ。皆さんにとって神様ってどんなお方だと思う？ある人は、「神様なんていないよ」と思っていますか？神様を信じていない人は、「神様がいないなら見せてみる！」って思っているかも知れませんね。または、神様は困った時にだけ頼りにするお方でしょうか。

神様は霊なるお方です

聖書は、神様がいてるかいけないかを証明する本ではありません。聖書の最初に「はじめに神は天地とを創造された」と書いてあります。ですから、聖書は神様がおられるとハッキリと言っています。では、神様がおられるなら見ることが出来るのでしょうか。皆さんはどうですか？神様に会って見たいと思いませんか？どこに行ったら、何をしたら

ら会うことが出来るでしょうか。今日の聖書に「神は霊であるから」とあります。「霊とは数字の「零」(ゼロ、何もない)」という意味ではありません。神様は目には見えませんが、確かにおられるお方なのです。

皆さんは、神様を見たことがありますか？なかにはお地藏さんやお守りを神様だって言う人がいます。私たち人間は、目に見えないものを形にして表そうとするのが大好きです。ですから、多くの人はきつねやへび、ときには人間を神様にしてしまうのです。でも、私たちが神様を何かの像や動物、人間の形にしてしまうのを、神様は非常に悲しまれるのです。神様は「偶像を作ってはならない」と言われました。ですから、もし神様を、何かの形に作ったりするのなら、それは神様に対して大きな罪を犯すことになります。神様は見えないからおられなくて、見えるからいるということではないのです。見えなくても神様は、確かにおられ、今も生きておられるお方なのです。私たちは神様が造られたものを通して神様を知ることができます。空の星、太陽、宇宙、そしてこの地球…。そして、私たちは皆、神様によって造られたのです。皆さんは皆、神様によって造られた作品なのです。それを皆さんは、信じられますか？

神様は、目では見ることが出来ませんが、神様が確かにおられることが分かる唯一の方法があります。それは、まず神様を信じることです。神様を疑う人は一生、神様を知ること出来ません。でも、この美しい自然を造り、私をも造ってくださった神様がいてと信じる時、不思議なように見

えない神様が心で分かるようになるのです。

神様は礼拝をお受けになるお方です

すべてを造られたただひとりの神様が望んでおられる事は、私たちが神様を信じて神様を礼拝することです。今、私たちは教会に来てお祈りして、賛美を歌い、聖書のお話を聞いていますね。これは神様への礼拝なのです。礼拝とは、神様を愛し大切にしていることの証です。私たちはその神様を中途半端な気持ちで礼拝するのではなく、私たちを愛し下さっている神様にお応えして心の底から全力で礼拝することが大切です。礼拝を通して神様からの豊かな祝福を受けます。心が苦しい時や悲しい時、礼拝を通して慰めや励まし力が与えられます。神様は霊なるお方ですから、ある特定の場所だけにだけおられるわけではありません。ですから、私たちはいつでもどこでも神様を礼拝することができるのです。例えば歩いてる時も、お風呂に入っている時も、です。素晴らしいですね。私たちは食事を通して体に栄養が与えられます。しかし、心の栄養は霊である神様を心から礼拝することを通して与えられます。

まとめ

神様を信じ礼拝する事は、素晴らしいことです。神様を礼拝する人は輝いた人にされます。いつでもどこでも神様を心から喜びつつ礼拝しましょう。神様も皆さんの礼拝を心から喜んでおられるのです。

♪まことの神さま♪ (ホ・子どもさんびか12)



聖書 Iヨハネ1・5〜10

テーマ 神は光である

序論

(水川)

ヨハネはこの手紙の中で「神は光である」と語っています。先週、神のご性質は「霊」であると学びました。霊であるとは物質的ではないということです。ですから、神が「光」であるという事は、神が「霊」であるというご性質との関係で考えなければなりません。神が光であるとは、目に見える光を意味しません。それは（少しも暗い所がない）という真理です。霊である神は光でもあるのです。神についてのこの大いなる事実は、私たちのような罪人が、神と交わることができるということを考える上で、特に心に留めなければならぬのです。

一、光の中を歩く（6〜7）

ヨハネがこの手紙を書いた目的は、「神との交わりにあずかるようになるため」（3）であると説きます。神との交わりが実現されることが、救いの完成であると教えているのです。

神が光であることは、倫理的な暗さ、罪、悪、不義などがないこと、すなわち少しも暗い所がないということです。ですから、この光は暗さを照らすものとして、上から来て、罪をゆるさないので、私たちが神との交わりを考えると、この神のご性質を無視すれば、神との交わりは成立しません。私たちが暗闇の中に留まっていながら、なお神との交わりの中にあると考えることは妄想です（IIコリント6・14）。ヨハネは7節で（神が

光の中にいますように、わたしたちも光の中を歩くならば）、私たちは、神と交わり、同様に神との交わりにある私たちお互いも、交わりを持つことができる、と言っています。

しかし、私たちが「光の中を歩くとき」、光は私たちの罪を暴き出します。少しの暗さも許さない神の聖き光に照らされて、自分の罪を自覚させられるのです。実際、神の光に照らされて、私たちは、はじめて本当に自分の罪、自分の醜さを知るのです。それは光の中にあつて自然に光に同化され消えていくものではありません。それは償わなければならぬ罪過として、私の心を責めるようになります。その恐ろしさから、私たちは光に顔を背けて逃げ出し、再び暗さの中に安らぎを求めようとさえするのです。しかし、（御子イエスの血が、すべての罪からわたしたちをきよめる）とヨハネは教えております。

二、罪を認め告白する（8〜10）

神は、罪人である私たちを神との交わりの中に保つために、キリストの血を備えていてくださるのです。「神にささげられたキリストの血は、なおさら、わたしたちの良心をきよめて死んだわざを取り除き、生ける神に仕える者としなすであらうか」（ヘブル9・14）とあるとおり、キリストの血が絶えず私たちの罪をゆるし、私たちが罪からきよめて、私たちと神との交わりを可能にします。（「罪がない」とは「自分に罪がない」（新共同訳）と主張することです。それは、第一に自分を欺くことであり、第二に真理は私たちのうちにないということです。自分を（欺く）とは、自分を迷わ

すという意味の言葉で、自分の罪についての責任を回避し、ごまかしているのです。もし、自分には罪がないと言うなら、自分を偽っているのであつて、当然真理はありません。このみ言葉は、御子イエスの血によつて、罪ゆるされた者に対して語られている言葉です。キリストを信じて、十字架の血潮の恵みに与かつた瞬間、私たちは永遠の命を持つ者とされました（ヨハネ3・36）。霊的立場は神の子ですが、日常生活の面では完全な者とは言えません。現実遭遇する問題に対して、間違いや失敗、罪すら犯し得る存在なのです。自分の不完全さを認め罪を告白するとき、私たちは神の前に、はじめて真実な心になり得るのです。

三、罪を赦しきよめてくださる（9）

罪を認め、罪を神に告白したとき、真実で正しい神（光なる神）は、私たちの真実を受け入れてくださつて、イエスの十字架の贖いの恵みに与らせてくださるのです。罪を告白するとは、自分が罪を犯したことを認めて、全く悔い改めることです。その罪の責任が私にあると認めることです。

結論

私たちの悔い改めは、赦しの条件ではなく、神との交わりができるための功績でもありません。キリストの血がすべての罪から、私たちをきよめてくださるのです。私たちは、キリストによつて現された神の愛を感謝し、キリストの贖いの御業を信じて受け入れましょう。生徒たち一人一人が、キリストの血潮の恵みに与かるように、祈つてご奉仕いたしましょう。

研究資料

(宮澤)

今週も、神の属性の一つである「光」についてのみ言葉が取り次がれる。

神の属性の一つである「光」について、聖書ではどのように取り扱っているかを簡単に見てみたい。イスラエルを取り囲む諸国では、太陽を礼拝する習慣が広がっていた。それゆえイスラエルでも「光」は神聖なものであり、神の象徴でもあった。聖書には、神は光を創造されたお方として語られ(創世記1・3)、神は「光を衣のようにまとい」(詩篇104・2)とも語っている。出エジプト記では、神の光は「雲の柱」「火の柱」における神の臨在としてイスラエルに伴ったとされ、イザヤ書60章には、「光」は「栄光」と結びついている。また新約聖書においても今回の箇所をはじめとして、ヤコブは神を「光の父」(ヤコブ1・17)とも呼んでいる。またパウロも「神は…近づきたい光の中に住み」(1テモテ6・16)と語っている。このように、神と光との関係を表す記述は聖書のいたる所に見ることができる。また、イエスの到来を、光を啓示するものと捉える考え方も、随所に見ることが出来る(マタイ4・16、ルカ2・32、ヨハネ1・4～9、3・19～21)。特にヨハネは、イエスは自らのことを世の光と同一視していたと述べる(ヨハネ8・12、9・5、12・35以下特に46)。そして、イエスは神の民にも光としての役割を担うようにと命じられたと、説くのである(マタイ5・14、16)。すなわち、神ご自身の性質が光であり、イエスは人々に対する神の光の受肉なのである。

なお、この手紙の執筆の事情については、8/15の研究資料を参考にして頂きたい。

テキスト

5 わたしたちがイエスから聞いて ヨハネは、イエスの特定の言葉を引用したのではなく、イエスの教えの要約として、この言葉を引用したものである。

6 偽教師に対する攻撃の第一は「神と交わりをしている」と言いながら「やみの中を歩いている」ということである。歩いて とは、生活するということを指す言葉である。**偽って** とは、真理に對立し、あるいは神に敵対するものである。なぜならば、偽りはサタンから出るものだからである。そこには真実の行いはない。

7 6節と対をなし、光の中を歩く者の結果について語られる。光の中を歩く とは、光である神との交わりを持つことが6節より語られていることと関連している。また、この歩みは、**神が光の中にいますように** 歩むことを求める。すなわち神が私たちに求める標準に合致した歩みでなければならぬのである。この歩みの結果は、**まず互に交わりをも** つ、ということである。この交わりは、この手紙の主題である「父ならびに御子イエス・キリストとの交わり」(3)を基礎としている。そして、もう一つの結果は「聖化」である。**御子イエスの血** による聖化である。ここで、**御子イエスの血が** とあることに注目したい。なぜ、「御子イエスが」と言わずに、「御子イエスの血が」としたのであるか。それは、「血は命」だからである(レビ17・11)。

8 偽教師に対する攻撃の第二が語られる。すなわち罪の告白についてである。この節の 罪 とは前節同様、単数形、すなわち罪の性質、原罪について述べられている。罪を犯す性質を持つていないと主張することは、**自分を欺く** ことであるというのである。**欺く** とは、惑わされて異端へと導くことである。と同時に真理そのものがその人の内にはないというのである。真理は私たちに罪の存在を知らせるはずだからである(ガラテヤ5・17)。

9 ここで語られる 罪 とは、8節までの単数形ではなく、複数形である。いわゆる行為として犯した罪のことである。**告白する** とは、神の前で公に罪を言い表すことを意味する。ヨハネはここで、罪の告白は神の赦しの前提であり、また神は罪の告白に対して赦しの約束によって応えてくださるであろう、というのである(詩篇32・5参照)。なぜなら**神は真実で正しいかたであるから** である。また、**罪** は複数形、**不義** は単数形が用いられていることから、前者は具体的な罪の数々、後者はその罪深き状態と考えられる。

10 偽りの教師に対する攻撃の第三は、個人的罪の否定に対してである。罪を犯したことがない という人は聖書を通して語られた神の言葉を否定している(列王上8・46、伝道の書7・20、イザヤ53・6、ローマ3・23)。それは、そのみ言葉を語られた神ご自身を偽り者とするることなのである。**参考図書** ハワード・マーシャル『聖恵・聖書注解シリーズ1』『ヨハネの手紙』(聖恵授産所出版部)他

聖書
タイトル
暗唱聖句
目 標

Ⅰヨハネ1・5～10
神様ってどんなお方？パートⅡ
神は光であって、神には少しの暗
いところもない。Ⅰヨハネ1・5
神は光なるお方と知り、罪をきよ
められて光の中を歩く者となる。

導入

(飯田)

先週のお話、覚えていますか？神様はどんなお方でしたか？神様は、目で見えることはできません。でも、確かに知られます。神様を信じる人は心で神様を知ることが出来ます。そして神様を信じ、礼拝する人は、素晴らしい生活を送ることが出来るのです。また、神様は皆さんに「もっとわたしのことを知って欲しい」と願っておられるのです。

神様は光なるお方です

皆さんは、学校の花壇やプランターでひまわりや朝顔などを育てたことがありますか？この夏休みに植物観察をしている人がいるかも知れませんか。植物を育てる中で必要なものは何でしょう？「水、土、空気」、他にありますか？そう！光です。光は植物にとっては大切なものです。「光合成」って理科の時間に習いましたか。植物は太陽の光エネルギーを受けて、光合成によって養分を作ります。ですから、光がないと植物は育つことができないのです。では、私たち人間はどうでしょう。人間の体にも光が必要です。光を通してエネルギーを受けて元気な体で生活することが出来ます。そして、体だけではなく実は私たちの心にも光が必要なのです。その光とは、神様です。光である

神様は、いつも私たちを神様の光で照らしてくださるお方なのです。この光によって、私たちは神様から喜びと勇気をもらうことが出来ます。ですから私たちは、この光である神様なしでは、生きて行くことはできません。

神様は暗闇をきらうお方です

でも、皆さんの中に「神様なんて信じなくても生きて行けるよ」って思っている人がいますか？実際に、体は生きていけるかも知れません。でも、神様を無視している人の心は生きていないようでも、実は死んでいるのです。

光の反対は、暗闇です。そしてその暗闇とは、罪の世界を指しています。皆さんは今、光の中を歩んでいますか？それとも罪の暗闇の中を歩んでいますか？もし、皆さんが神様を無視して生きるならば、暗闇の中を歩んでいることになります。

皆さんに考えてもらいたいことがあります。学校でいじめや、友だちの悪口、いたずらなどは先生の前で行われているのですか？そうではないと思います。先生に見つかっては困るようなことは、隠れた所で行われているのではないのでしょうか。人には見せられない、隠れた所で行われるようなことをする人が、暗闇の中を生きる人なのです。いじめや悪口、どろぼう、喧嘩…。または、だれも分らない心の中に嘘、ねたみ、意地悪などを持つている人も、暗闇の中を歩んでいる人です。神様を憎む人は、暗闇を愛する人です。このじめじめした暗闇の中を生きることとは決して幸せな人生ではありません。心の暗闇は、自分だけでなく人までも傷つけてしまうし、暗い気持ちにさせてし

まいます。神様は、人を不幸にするこの暗闇が大嫌いなのです。あなたの心には罪という暗闇がありませんか？

神様は私たちをきよめてくださるお方です

光である神様は、皆さんが暗闇ではなく光の中を歩むことを願っておられます。それだけでなく、神様は皆さんと親しくしたいと願っておられるのです。でも、きよい光と汚れた暗闇では、親しくなることはできません。そのため神様は、私たちにイエス様を与えてくださったのです。イエス様は、私たちが心の中に抱えている罪という暗闇を全て負ってくださいました。何の罪もない聖いイエス様は、私たちの罪を身代わりに背負ってください、十字架にかかり血を流されたのです。このイエス様の流された血が、自分の罪のためであることを信じる人は、暗闇の中を歩むことなく、光の中を歩むことが出来るのです。神様は、私たちを光の中に招くためにイエス様によって罪をきよめてくださるお方なのです。何と素晴らしいことでしょうか。あなたがどんなに汚れていても、または「自分なんて駄目だ」とあきらめていても、神様はあなたをきよめて光の中を歩ませてくださるのです。

まとめ

光である神様は、どんな時でも共におられ、皆さんの心と人生を照らし、素晴らしい人生へと導いてくださいます。暗闇を愛するのではなく、イエス様の血によって罪がきよめられ、光の中を歩むようにして頂きましょう。

♪ひかり ひかり♪ (ホ・子どもさんびか109)



聖書 Iヨハネ4・7～12

テーマ 神は愛である

序論

(大頭)

神は愛なるお方。CS教師はこの「お方」に注意を払いたい。マクグラスはこの「人格神」の概念をキリスト教信仰の核心の一つに挙げている(総説キリスト教「37頁以下」)。人格ある神は単なる知識として知ることとはできない。神は人格的な関係すなわち交わりを通してのみ知ることができる。それゆえ神と交わることなしに神を語ることとはできない。メッセージは交わりの結果であって、交わりなしのメッセージはあり得ない。交わりの中に神を体験し、体験した神の手ざわりを子どもたちに伝えよう。それが命を与えるメッセージなのだから。

一、一方的な愛

「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して下さった」とある。聖書の最初には「はじめに神は天と地とを創造された」(創世記1・1)とある。罪を犯した人に神は「あなたはどこにいるのか」(同3・9)と呼びかけられた。旧約時代を通して神は、顔をそむけるイスラエルに預言者を送り続けた。聖書は神の物語であり、その主語は神である。そして時至たつて、神はご自身の御子を送ってくださった。神は人間を捜し求めるあわれみの神なのである。あわれみの神は、私たち一人ひとりが滅びていくのをじっと見ていることがおできにならないのである。

二、犠牲的な愛

それゆえ神は「わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった」。父なる神と子なる神はひとつである。「神がご自身の血をもって買い取られた神の教会」(使徒20・28、新改訳)とある。つまるところ三位一体とは、私たちに理解できない不思議な方法によって、神ご自身が犠牲となつてくださったことに尽きる。神は私たちのために何も惜しむことをなさらなかった。子をお供え物とする父として、父に供え物にされる子として、神は十字架の苦しみを何重にも味わい尽くしてくださった。何という愛だろう。

三、私たちの生き方を変える愛

「すべてが終った」(ヨハネ19・30)との主イエスの叫びは、創世記3・15の預言の成就である。ヘブル書には「このように、子たちは血と肉と共にあずかっているのに、イエスもまた同様に、それをそなえておられる。それは、死の力を持つ者、すなわち悪魔を、ご自分の死によって滅ぼし、死の恐怖のために一生涯、奴隷となつていた者たちを、解き放つためである」(2・14～15)とある。私たちは悪魔の奴隷であつた。悪魔は私たちが神以外のものに存在理由を求めるようにそそのかす。他の人よりすぐれた業績や学歴、容貌や持ち物がそれである。それらを失うときは生存の根拠を奪われるときだと、悪魔はささやく。死の恐怖である。こうして私たちは被造物にしがみつき、たがいに競い、ねたみ、他人の転落を喜ぶ。勝つたと言つては高ぶり、負けたと言つてはいじける。けれども、神は私たちを解き放つ。神ご自身の

血はあらゆる被造物への依存から私たちを自由にする。それが、アルコールや薬物、セックスへの依存であれ、ゆがんだ人間関係や持ち物、他人の評価や偶像への依存であれ、悪魔の支配は「すべてが終った」のだ。悪魔は十字架でキリストのかかとを砕いたけれども、キリストは同じ十字架で悪魔のかしらを砕いたからである。

今も悪魔は存在する。けれどもその支配力はすでに滅ぼされた。だれでもキリストの十字架を信じる者はもはや悪魔の奴隷ではない。神のかたちをとりもどし、たがいに心から、愛し合うことができる。自分より優れた人に対しては、その人から良きものを受けることができるようゆえに、その人を喜ぶ。また、自分よりも劣つた人に対しては、その人に分け与えることができるゆえに喜ぶ。私たちはだれにも自分の存在理由を証明する必要がない。なぜなら、神がそれ以上ない証明をしてくださったからである。それが十字架である。十字架にあらわされた神の愛がその証明なのである。

結論

信じるとはあわれみの神のあわれみの中に自分をまろごと投げ込むことである。マタイ15章を見よ。「あなた信仰は見あげたもの」(28)という主イエスのお言葉は、ただ神のあわれみを求めたカナン人の女に与えられた。大人も子どもも決して滅びてはならない。主イエスを信じないで死ぬようなことが決してあつてはならない。涙をもつて子どもたちのためにとりなしつつ、真つ正面から福音を語ろう。

研究資料

(宮澤)

今週は、神の属性の一つである「愛」について、先週と同じヨハネより取り次がれる。

愛は、神の属性の中の一つであり、特に神が人間との関わりにおいて表される道徳的屬性の中の代表的なものである。この神の、人間に対する愛について、バークレーは次のように述べている。

①愛は神の本質である。②神の愛は「普遍的な」愛である(ヨハネ3・16)。③神の愛は「犠牲」の愛である(一ヨハネ4・9)。④神の愛は、私たちが「それに値しない」愛である(ローマ5・8)。

⑤神の愛は「あわれみ」の愛である(エペソ2・4)。⑥神の愛は「救い」と「きよめ」の愛である(Ⅱテサロニケ2・13)。⑦神の愛は「力強い」愛である(ローマ8・37)。⑧神の愛は、それから「引き離すことはできない」愛である(ローマ8・39)。

⑨神の愛は「報いを与える」愛である(ヤコブ1・12)。⑩神の愛は「訓練」の愛である(ヘブル12・6)。神の愛について、これらの箇所を引きながら思いを巡らすこともまた有益であろう。

さて、この手紙の執筆事情についてであるが、この手紙を使徒ヨハネが書いた時、キリスト教は広くローマ帝国に広まっており、大きな影響を及ぼす宗教となっていた。当然、その当時ローマを支配していた哲学や思想体系と福音を結び合わせようという努力もなされた。その結果、キリスト教の内部にも異端が入り込むことになった。ヨハネはそのような異端と戦うために本書を執筆した

ものと考えられている。また、当時の教会は偽教師に対する脅威にも直面していた。これらの異端や偽教師の主張に対して、神は光であり、愛であること、そしてイエス・キリストは神の御子であり、真の人であることを明らかにするために、ヨハネは本書を執筆したのである。

テキスト

7 この節では愛の源が取り上げられる。愛の源泉と言ってもいい。キリスト者が互いに愛し合う理由の一つが「愛は、神から出たもの」だからであるというのである。冒頭に示した「神の愛」とは、神をその源としているのである。愛する者たち

よ ヨハネ特有の呼びかけであり、この短いヨハネの手紙の中に六回登場する(2・7、3・2、21、4・1、11)。この呼び方は、非常に重要な問題が取り扱われる時に使われている。なお、直訳では「神に愛されている者よ」という意味である(永井訳参照)。

8 ヨハネはしばしば逆説的な表現によって、その重要なポイントを表現する。隣人や他者への愛を考えたこともない人は、自己愛のみで、自らを絶対化しているので神を知るはずはないのである。神は愛である 愛には冠詞がついていない。神の愛は一つの特質としてではなく、本質そのものであることを示すものである。一方、神には冠詞がついている。このことは、神は愛であるが、愛は神ではないことを示している。

9 ヨハネ3・16を思い起こさせる箇所である。この箇所の原文の文頭は「これをもって神の愛は、我等のうちに顕われたり」(永井訳)の意味である。

この箇所の中心は、神の愛の顕れである。どこにも神の御手が見えない、神の御声が聞こえない、そのような中でも、神の愛はイエス・キリストにおいて歴史のうちに明らかにされているのである。この節に登場する神の愛は、自己犠牲の愛であり、他者の益になるための愛である。

10 9節同様、日本語の聖書では語順の逆転が起こっているが、本来の語順では、ここに愛があるが文頭にくる。神の愛とは、前節に示されているように自己犠牲の愛である。この自己犠牲の神の愛は、神ご自身の主導性の元に示された愛であり、御子を私たちの罪のあがない(なだめ、新改訳)の供え物としてお遣わしになったという先行する愛の行為に、神の愛を見るのである。

11 この手紙には、愛し合うべきである というように、何回かの命令形が登場する。しかし、これらはいずれも外的な強制による命令ではない。そうではなく、このようなキリストの愛を受け入れた者の内面からの応答によるのである。

12 神を見た者は、まだひとりもない 神は霊であり、私たちの目に見えるお方ではない(ヨハネ1・18)。旧約聖書における同種の記述は、神の特別な啓示であって、神ご自身を見たのではない。もしわたしたちが互に愛し合うなら 目に見えない神は、主の民の相互の愛の中に自らを現し、その神の愛が、全うされるのである。なお、全うされるとは、完全なものになる、目的を達成する、という意味である。

参考図書 8/8の参考図書と同じ

聖書
タイトル
暗唱聖句

Ⅰヨハネ4・7、12
神様ってどんなお方？パートⅢ
愛さない者は、神を知らない。
神は愛である。Ⅰヨハネ4・8
ひとり子を与えてくださった神
の愛を知り、互いに愛し合う者
となる。

導入

(飯田)

皆さんにお尋ねします。この教会の牧師先生はどんな先生ですか？「優しい先生、面白い先生、いつもニコニコしている先生」、いろいろな応えがあるでしょう。決して一つの答えでは言い表せないと思います。それは、四角形にも四つの面があるように私たちにもいろいろな面があるからです。神様も一言では言い表せないお方です。今まで、神様はどんなお方だと聞いたでしょうか。そう、神様は目には見えないけど確かに知られる霊なるお方。神様は私たちを照らして力を与え、きよめてくださる光なるお方でした。そして、今日も神様がどのようなお方が見てみましょう。

神様は愛なるお方です

神様は愛なるお方です。皆さんは「愛」と聞いてどのようなイメージを持ちますか？温かいイメージ、何だかホンワカしたイメージ、甘いハートのイメージでしょうか。それぞれのイメージがあると思います。皆さんにも、だれか大好きな人がいるでしょう。でも、私たちの愛と神様の愛は違います。私たちの愛は、変わりやすい愛です。例えば、大好きな人であったとしても、喧嘩したら仲が悪くなっ

て、気持ちが冷めてしまいます。しかし、神様の愛は決して変わることなく、私たちをいつも愛し続けてくださっているのです。皆さんは、「変わってしまいう愛」と「決して変わらない愛」のどちらで愛されたいでしょうか？神様は、どんなことがあっても私たちを赦し受け入れ、愛してくださるお方なのです。

神様の大きな愛

もし皆さんが、仲良しのお友だちと仲良しでないお友だちそれぞれにプレゼントをあげるとします。どちらのお友だちに良い物をあげるとしようか？恐らく仲良しのお友だちの方に良い物をあげると思います。なぜなら、私たちは愛する人に少し無理をしても、良くしてあげたいと思うものだからです。ですから、愛の大きさはその人に対する犠牲の大きさによって分かります。

ある所に二人の男女がいました。二人は互いに愛し合っていました。しかし、二人ともお金がなく互いへのプレゼントを買うことが出来ませんでした。ある時、男性は女性のために自分の大切にしていた懐中時計を質に入れて、彼女の欲しがっていたベッ甲の櫛を買いました。一方の女性は、自分の大切な長い髪を切つてそれをお金にし、彼に時計の鎖をプレゼントしたのです。二人は互いに犠牲を払って自分の愛を表したのです。

では、神様の私たちへの愛は、どれほど大きなものなのでしょうか。それは、神様が愛する御子イエスを十字架にかけるほどの愛なのです。私たち人間は、神様を無視して罪を犯してしまいました。そのまま行けば永遠の死に向かって行きます。私たちが愛する神様は、私たちが永遠の死に向かうことを

決して望まれていません。ですから、何とか永遠の死から私たちを救おうとされました。その方法として、永遠の死に行かなければならない私たちの身代わりとなってイエス様が死んで下さったのです。神様にとりてイエス様の死はとても大きな犠牲だったのです。ですから、十字架はただのアクセサリーではなく、神様の大きな愛の証拠であり、証なのです。

私たちを変える神様の愛

皆さんの中には、人を愛せないで悩んでいる人がいますか？でも、神様はそんなあなたをも、大きな愛で愛しておられます。ですから、先ず神様の大きな愛を信じ受け取ってください。この愛を受け取る人は、神様の大きな愛が心の中に流れ込んで来ます。そうすると、心が愛で満たされ、生き方が変えられるのです。まず、皆さんが自分を愛することが出来るようになります。そして次に、神様の大きな愛をもって家族や友だちを愛することが出来るようになるのです。たとえ、嫌だと思っている人であっても、感情ではなく愛を土台とした思いをもって愛する人に変えられるのです。これは神様の愛の力によってできる恵みです。

まとめ

神様の愛は、皆さんの心を生き生きとさせ、その人生を素晴らしいものにします。また、皆さんが神様の愛で多くの人を愛して行く時、その愛を受けた人も生き生きとされて行くのです。神様の愛には、ものすごいパワーがあるのです。私たちの周りは愛が冷えています。神様の大きな愛によって、互いに愛し合う者にされましょう。

♪あいをください♪

(ホ・子どもさんびか78)



聖書 創世記3・1～24 テーマ 罪がもたらすもの

序論

(大頭)

神に創造されたアダムとエバは、楽園で幸せな生活を送っていた。ところが、彼らは神の戒めを破り、罪を犯した。神は彼らに一つの戒めとそれを破ると「きつと死ぬ」(創世記2・17)という警告を発しておられた。ローマ6・23にも「罪の支払う報酬は死である」とある。ところが実際に彼らの心臓が即座に停止したわけではなかった。ではいったい罪の結果としての死とはどんな死なのだろうか。

一、生まれながらの霊的な死

「主なる神の歩まれる音を聞いた。そこで、人とその妻とは主なる神の顔を避けて、園の木の間を身を隠した」とある。罪を犯す前の神と人との生活をしのばせるひとコマである。罪を犯す前までは、夕暮れになると神と人とは並んで歩いたのだらう。人は神に、その日見聞きした神の被造物についての発見を報告し、神は人のそんな様子に目を細めて……。けれどもこれほど親しい神と人との関係は破れた。人は罪の結果、神を恐れるようになった。神の愛がわからなくなったのである。失楽園後、神と人類の距離はさらにへだたていく。ついには、だれも生まれながらに神を知っている者はいなくなつた。人は死んで生まれてくる。彼には偶像の方が神らしく見ええさえる。そして真の神を知らぬまま滅びていく。これが罪の結果としての霊的な死の意味である。

二、肉体の死

霊的な死はたちまち人に訪れたが、やや緩慢に訪れたのが肉体の死である。「あなたは土から取られたのだから。あなたは、ちりだから、ちりに帰る」とあるとおり、肉体の行き着く先は生命のないちりである。

しかし、最初からこうではなかった。園の中央には、「命の木」と「善悪を知る木」があつて、神は「命の木」の実を禁じておられないことに注意を払うべきである。人が正しい選択をして「命の木」から食べていたなら、彼は永遠に神とともに命を謳歌(おうか)していたはずである。それは自分が神になることではなく、神と共に永遠にすることを選ぶことであるからだ。

かくして人はちりに帰る。けれどもアダムが九百三十歳まで生きた(5・5)ことにも注意したい。その後、神は人の齢(わい)を百二十年にされた(6・3)。人の寿命はが神から離れるほど短くなつていったのである。命の源は神にあるからだ。

三、第二の死(永遠の滅び)

「神は人を追い出し」とある。楽園への道は閉ざされた。エデンの園の東に置かれた「ヘルビム」と、回る炎のつるぎ)は人の側からは神に近づく道がないことを示す。けれども神は、原福音(聖書で最初に示されたメシア預言)と呼ばれる15節で、神の側からの救い主の訪れを約束された。処女から生まれ、悪魔にかかとを砕かれつつ悪魔のかしらを砕く主イエスである。

このような神のあわれみにもかかわらず、かた

くなに救いを拒否する者には第二の死が訪れる。黙示録20章に、「それから、死も黄泉も火の池に投げ込まれた。この火の池が第二の死である。このいのちの書に名がしるされていない者はみな、火の池に投げ込まれた」(14・15)とあるのがそれである。彼らは永遠にそこで終わりのない苦しみを味わうことになる。罪を犯したゆえに滅びる者はだれもない。人は救い主を受けいれない不信仰のゆえに滅びていくのである。

結論

罪の結果である三つの死(生まれながらの霊的な死、肉体の死、第二の死)は厳粛である。けれども神が刑を冷酷に執行する処刑人であるかのように考えてはならない。神は、罪を犯した人を探し、その言い分に耳をかたむけ、皮の着物を着せてくださった。地はもはや楽園ではないが、苦しんで勞すれば地から食物を取ることができ、女も苦しみながら子を産むことができる。神はあわれみの神である。

あわれみの神のつかわしてくださつた御子を信じる者は新しい命を注がれ、この世でただちに神との交わりを回復していただける。また、ちりに帰つた肉体も、御子の再臨のときに朽ちない体によみがえらされる。さらに御子を信じる者は、第二の死も恐れる必要がない。そのときは彼らを苦しめる一切の悪が永遠に取り除かれる歓喜のときだからである。たしかに罪の支払う報酬は三つの死である。しかし「神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにおける永遠のいのちである」(前掲ローマ6・23の後半)。

研究資料

(宮澤)

テキスト

1 **へび** 古代の神話では生命、知恵、富などをつかさどる神の象徴として登場する。しかし、単なる象徴としての存在ではなく、その特質である狡猾（こうかつ）さを利用したサタンの存在を背後に見る見方を取るべきである。

3 **5** この、へびとエバとの会話は興味深い。まず、へびが「神」の名を口にしていて、神を否定したり、また神の命令を無視するのでもなく、神の命令についての問いを発している。神そのものを肯定しつつ、神の言葉に疑いを抱かせようとするのはサタンの常套手段（じょうそうしゅだん）である。

それに対してエバの返答は、直接語られた神の言葉（2・16・17）と食い違っている。**これに触れるな** とは、神の言葉にはないし、きつと（新改訳、新共同訳では「必ず」）死ぬと言われた神の言葉に対してエバは、**死ぬといけないから** と、そのニュアンスを薄めてしまっている。

6 **7** こうして彼らは神の言葉に背いて善悪を知る木から取って食べてしまったのである。

8 **13** ここから神の裁きと処罰の場面である。
9 **あなたはどこにいるのか** アダムがどこにいるのか分からなかったということではない。アダムの自己認識と、それに対する応答を求める問いかけである。罪によって絶たれた交わりであるが、神の側からの恵みの語りかけによって回復の糸口が提供されている。

12 **わたしと一緒にしてください** たあの女 「あ

なたがわたしと共にいるようにしてください

た女（新共同訳）。アダムは自分の罪の責任を、神と女の両者に転嫁している。

13 女も同じようにへびに責任転嫁をする。

14 へびへの裁きの宣告。

15 聖書観の相違により、様々に解釈されてきた箇所の一つ。ある解釈は、前節同様に原因物語的理解の域を出ない理解に終始し、「なぜ蛇は一般的に女性に嫌われるのか」との疑問への回答であるとの立場から理解する。また別の立場は「頭」と「かかと」の対比程度の理解に終始する。しかし、この節は「原福音」と呼ばれ、聖書に初めて示されたメシア預言であり、罪を犯した人間への救済が語られている。**恨み** 敵意（新改訳、新共同訳）。**おまえ** とはへびの背後にいるサタンのこと。人は、本当の敵であるサタンに敵意を持つべきである。神は墮落した人間を、なおご自分のものとしてくださるという、神の一方的なあわれみ、福音をここに見ることが出来る。**彼** とは女の子孫であって、個人でも集団でもあり得る。集団であるとする、女の子孫である全人類を指すと理解でき、個人を指すとするイエス・キリストを指すと理解できる。しかし、仮に全人類を指すとしても、その勝利は結局のところイエス・キリストによつてもたらされるのである。**かしらを砕き…かかとを砕く** 頭を砕かれることは致命傷、死を意味し、かかとを砕かれることは痛み、苦しみを意味する。キリストの十字架による勝利を意味する。

16 女性に対する裁き。のろいはへびに対してであり、人についてではない。この箇所での罪の刑

罰は、産みの苦しみ と 夫を慕う ことである

反面、苦しみの中にも希望を見いだすこともできる。

17 **19** アダムへの裁きの宣告。**地はあなたのためにのろわれ** のろいが彼自身ではなく土地に向いていたことに、神のあわれみを思う。罪の罰として、自然界はアダムの意志に逆らうようになる。

20 **エバ**（ハバ）で、生きた者（ハハー）との語呂合わせ。命という意味を持つ。

21 **皮の着物** いちじくの葉（7）の着物との対比を見る。不完全かつ一時的でないいちじくの葉に対して、完全であり、かつ永遠な着物である。しかも、人間が自らの手で作った着物に対して神ご自身の手による着物こそが究極の着物である。また、皮の着物を作るには、動物の血が流されなければならない。ここからイエス・キリストの十字架の予表を見るのは行き過ぎとの指摘もあるが、イエス・キリストの犠牲、身代わりに連なるものとして見ることは許されるであろう。

22 **人はわれわれのひとりになり、…** 神から離れたことは、神に対抗する存在となったということである。そして人は罪人として善悪を知る者となったのである。神に反抗する者、罪の奴隷として、人はある意味で神のようになったのである。

24 **追い出し** 23節の「追い出す」より更に強い言葉で「追放する」（新改訳、新共同訳）の意味。裁きの明確さと刑の執行の厳格さを意味している。**ケルビム** 至聖所を守る天使。神の力を代表する天使として登場する。

参考図書 小畑進『創世記講録』（いのちのことば社）他

聖書

創世記3・1～24

タイトル

あなたは、大丈夫？

暗唱聖句

罪の支払う報酬は死である。

ローマ6・23

目標

罪の恐ろしさを知り、罪の赦しを受け取る。

導入

(飯田)

皆さんは、学校の先生から「クラスのみんなと仲良くするように」って言われるでしょう。でも、皆さんの間で友だちをからかったり、喧嘩があったりしませんか？また、時にはだれかの物が盗まれたり、壊されたりすることがないですか？どうして、そのような悲しいことあるのでしょうか。悪いのは自分ではなく、ほかのお友だちが悪いからでしょうか？実は、私たちはみな、心の中に悪いことをしてしまう思いがあるのです。「そんなことないよ」と思いかもしませんか。でも、それに気づくことはとても大切なことなんです。

罪の始まり

心の中にある悪いものを「罪」と言います。この罪があると決して幸せな人生を歩むことができないのです。「先生、そんな罪、だれが僕の心の中に入れたの!？」って言う人もいますでしょう。

では、どうしてこんないやなものが私たちの心の中にあるのでしょうか。それは、今朝の聖書箇所にかかれてあります。神様が初めて造られた人間は、アダムとエバでした。神様とこの二人の間は、何でも話し合える親しい関係でした。ところが、二人は神様から食べてはいけないと

言われていた木の実を食べてしまったのです。二人は神様との約束を破ってしまいました。その時、二人の中に「罪」が入ってしまったのです。

少し考えてみましょう。私たちが飲む水の水源に毒が流されたらどうでしょう。いくら美味しい水でも毒の水に変わってしまいます。そのように、私たちの先祖であるアダムとエバに罪が入りました。それで、私たち人間はみな、罪がある「罪人」になってしまったのです。

罪の結果

皆さんは、友だちにきられてしまうことをして仲が悪くなったことはありませんか？仲が悪くなると楽しかった思い出も消えてしまいます。アダムとエバに罪が入ったことによって、神様との関係は崩れてしまいました。二人は、神様が恐くなり、神様を避けて隠れるようになってしまったのです。罪は私たちが神様から離れてしまいます。また、罪は神様の愛を分からなくしてしまう、とても恐ろしいものなのです。

罪が人間に入ってしまったことによって、私たちは死ななければならなくなりました。どんなに偉い人もお金持ちも、健康な人もみんな死ぬのです。そして、それは体の死だけではありません。罪に犯された私たちの心は、実はすでに死んでいるのです。死んでいる心は、何がよいことか悪いことが分からないのです。そのような人は、平気で嘘をついたり、友だちをいじめたりします。または、心の中で人を恨んだり、「あのやさしい人ければ」と思ったりします。テストで友だちが自分より良い点を取ったら、ねたむのです。イエス

様はある時、「人から出て来るものこそ、人を汚す。みだらな行い、盗み、殺意、姦淫、貪欲、悪意、詐欺、好色、ねたみ、悪口、傲慢、無分別など、これらの悪はみな中から出て来て、人を汚す」(新共同訳、マルコ7・20～23)と言われました。

私たちは心の中にあるものが口から出たり、行いになったりします。ですから、心が死んでいるなら、人を傷つけ苦しめるだけでなく、自分も苦しむのです。

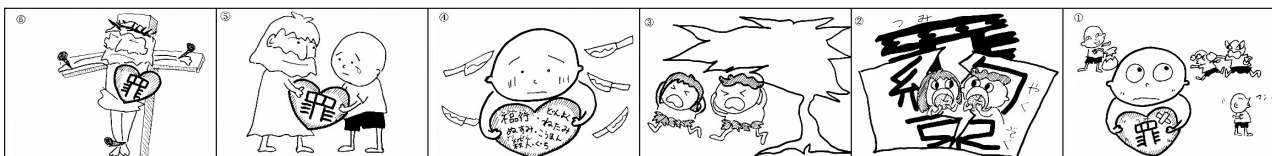
罪からの救い

皆さんは、自分に罪があることを認めますか？罪があるなら、それは重い荷物を背負わされているのと同じです。それを降ろさなければ、自由になれません。神様は、罪がある私たちを見放してはおられません。皆さんを苦しめている罪から救いたいと願っておられます。アダムとエバも罪を犯しましたが、神様は二人をあわれみ、皮の衣を着せられたのです。神様は、皆さんをあわれみイエスを送ってくださいました。イエス様は、私たちの内にある恐ろしい罪を、身代りに背負って死なれました。私たちがこのイエス様の十字架を信じるなら、罪から救われるのです。

まとめ

皆さんの中に、罪から救われていない人がいますか？もし、いたなら一日も早く、イエス様を信じて、罪から救って頂きましょう。

♪さあ イエスを信じましょう♪
(ホーリネス・子どもさんびか60)



聖書 創世記7・1～24 テーマ 箱舟なるキリスト

序論

(福井)

聖書にはキリストの救いの型がたくさんある。例えば、さおの上につけられた青銅の蛇、屠られた小羊、杖で打たれた岩などがある。特によく知られているのはノアの箱舟で、大洪水は神の審判の型であり、箱舟はキリストの十字架、キリストの救いの型である。大洪水から救われるのは箱舟に入る以外にはなかったように、イエス・キリスト以外に、救いはない。

一、最後の招き

人が罪の中を歩んでいるのを見て、主は心の底から悲しまれ、不信の世に大洪水によるさばきをくだそうとされた(6・6～7)。そこで、(あなたと家族とはみな箱舟にはいりなさい)と神は最後の招きをノアになさった。(はいりなさい)は、むしろ「来なさい」という神の招きの言葉である。(あなたと家族)とあるが、主はノアの信仰のゆえにその家族も救われたのである(使徒16・31)。主はノアに、彼の家族と共にあらゆる種類の動物たちを箱舟の中に入れるように命じられた(2・3)。それは、①救いが動物の上に及ぶため、②洪水後の新しい世界においてそれらの動物がノアとその家族によって支配されるため、③それらの生き物が食物となつて、ノアとその家族、子孫を支えるためであった。

主は大洪水を(七日の後)に始めると最後の猶

予期間を設けられた。この最後の機会もまた悔い改めて箱舟に入る者を救うためであった。実に神は「あわれみに富み、めぐみふかく、怒ること遅」(詩篇103・8)い、お方である。(ノアはすべて主が命じられたようにした)とある。主に対するノアの忠実さと従順さを見る。

二、大洪水と乗船

主は七日間の猶予を与えられた。その間、ノアは多くの人々に近づいている大洪水によるさばきについて語った。罪を悔い改めて、救いの道である、箱舟に入るようにと。しかし、人々はノアから聞いた、主のさばきと救いのメッセージを不信仰のため受け入れず無視した(1ペテロ3・20)。また、この七日の間に、ノアとその家族は、動物たちを箱舟に入れた。それから最後に、主の招きに応じてノアとその三人の子ら、ノアの妻、その三人の子らの妻の合計八人が箱舟に入った。(そこで主は彼のうしろの戸を閉ざされた。これによって、不信の世に与えられていた恵みの時が終わり、ノアとその家族の者たちは主の御守りのもとにおかれたのである。

ついに、大洪水による神のさばきが始まった。(それはノアの六百歳の二月十七日であつて、その日に大いなる淵の源は、ことごとく破れ、天の窓が開けて、雨は四十日四十夜、地に降り注いだ)。ノアの言うことに耳を傾けようとしなかった人々は、低地から丘へ、丘から高地へ、高地から山へ逃げた。そこにも水が押し寄せ、ここで初めてノアの言葉が脳裏によみがえり、神のさばきの洪水だと

悟つたに違いない。

三、唯一の救い

恐るべきさばきの大洪水がやってきた。それはすべてのものを飲み尽し、すべてのものはその下におわれ、命あるものは滅びてしまった。その時、ノアの箱舟にいたその家族全員、共に箱舟に入った動物たちだけが、その大洪水を免れ生き残つた(21～23)。

ノアとその家族の入った箱舟はキリストの十字架、キリストの型である。この箱舟には戸口があつた(6・16、7・16)。この戸口から入ったノアと家族が大洪水から救われたように、「わたしは門である」(ヨハネ10・9)と言われるキリスト以外に救われる道はない。そのイエスは人の救いのために十字架上で命を捨ててくださり、その確証としてよみがえられた(ローマ4・25)。

この大洪水から逃れ生きのびたものではなく、「箱舟のほかに救いはなかった」。そしてそれは、新約の今の時代においても、私たちの箱舟なるイエス以外に救いはないことを裏付けている。「この人による以外に救はない。わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである」(使徒4・12)。

結論

今の時代はノアの時代以上に、神への反逆と暴虐に満ちた時代である(マタイ24・37～39)。このことを見極め、聖霊に満たされ、神のさばきと救いの福音を熱心に伝えなければならない。

研究資料

(宮澤)

テキスト

1 箱舟の完成と同時に、その箱舟への乗船の指示が与えられる。しかも、大洪水がその七日後に起こるというカウントダウンが始まる。神の裁きと同時に逃れの道も備えられるのである。

2 清い獣：清くない獣 この規定についてはレビ記11章に記されている。きよめの儀式に用いたり、食用にすることができものが「きよい」動物である。しかし、ここでは清くない動物も救いの対象になっている。また、数も七つ（口語訳）という数え方と七つがい（新改訳、新共同訳）と、両方の説がある。

4 七日の後 箱舟にはいるために必要な期間ではないかと考えられている。同時に神の定めの時を指す預言の言葉でもある。

10 七日の後 新共同訳には「七日が過ぎて」と表現されており、4節の神の預言の言葉が、そのとおりになったことを強調した言葉である。1ペテロ3・20には、「むかしノアの箱舟が造られていた間、神が寛容をもつて待つておられた」とあり、忍耐をもつて待つておられた期間がこの七日間であるという理解もできる。

11 多いなる淵の源 淵（創世記1・2）にも登場する語。源 とは「泉」「源泉」といった意味の言葉で、複数形が用いられている。天の窓 天の上には分けられた「おおぞらの上の水」（創世記1・7）があり、その水から流れ出す「源泉」のこと。大雨はそこから降ると考えられていた。ここでは創造の時に分けられていた「おおぞらの下の水」と「おおぞらの上の水」（1・7）とが一つに戻る

ことで、大洪水が創造以来の原初の「地は形なく、むなしく、やみが淵のおもてにあり、神の霊が水のおもてをおおっていた」（1・2）の状態になることを指しているであろう。

14 5 16 次に、動物が箱舟に入る様子が記される。動物たちは、二つずつ はいったとあり、それらが雄と雌 とであったと記されていることから、種の保存のための神の配慮が記されている。また、ノアのもとにきて、箱舟にはいった とあることから、神ご自身の主体性による働きかけがあったことがうかがえる。そこで主は彼のうしろの戸を開ざされた いよいよ運命の戸は閉ざされた。すべてを支配しておられる神のご意志によって、戸は閉ざされる。それに対してノアはどう思っていたのだろうか。ペテロはノアを評して「義の宣伝者」（Ⅱペテロ2・5）と語っていることから、神がうしろの戸を開ざすまでは神の救いと洪水によるさばきを証し続けていたのであろう。しかし、神が戸を開ざされて、最も「しまった！（閉まつた）」と痛恨の極みの中にいたのも、他ならないノアその人であつただろう。

17 a 四十日のあいだ 七十人訳聖書には「四十日四十夜」とある。箱舟浮上のきつかけとなった増水についての説明であつて、12節の言葉とは意味合いが異なる。

17 b 5 20 a 水がさらに増え続ける様子を写實的に描く。地の上の水がますます増えていく様子がうかがえる。増した（18）…ますます地にみなぎり（19） 18節の「増した」（メオード）は、「大いに増し」（新改訳）、「大いにみなぎり」（新共同訳）などと訳されている。それらが19節において「ますます地にみなぎり」（メオード・メオード）

となり、「いよいよ…増し加わり」（新改訳）、「ますます勢いを加えて地上にみなぎり」（新共同訳）と、最上級の強調を意味する。

19 天の下の高い山々は皆 この表現が地上のどの範囲を指すかで意見が異なる。世界大の洪水であつたとも、また局地的な洪水であつたとも考えられている。しかし、地（エレッツ）という言葉が必ずしも全地球上を意味する言葉として用いられているわけではない。また、この洪水がこの地方の腐敗、墮落への裁きを目的として起こされたものであることから考えると、局地的なものであるとも理解できる。しかし、これだけの大洪水が世界各地にまで及んでも不思議ではない。

20 十五キュビト 約七メートル。新共同訳聖書では、ヘブル語読みの「アンマ」が用いられている。一キュビトは約四十五センチメートル。

21 5 23 神の意志の確かな実現。ペテロは、この箇所をバプテスマと結びつけている（1ペテロ3・20 5 21）。それによってペテロが意図したのは、水による裁きと、その先にある生ける神の恵みによる命のあることを示すことにある。また、この水は死に至らせるという目的を果たし、みな滅びた（21）…すべてのものは死んだ（22）…みな地からぬぐい去られて（23）と繰り返す神の徹底した裁きが語られている。それほどこの神の審判は恐ろしい出来事だったのであろう。

24 百五十日のあいだ 四十日のあいだ（17）をその中に含んだ日数であろうと考えられる。はじめの四十日間の大洪水の影響で、その後百十日間は増水し続けたことになる。

参考図書 小畑進『創世記講録』、舟喜信『新聖書注解旧約1』『創世記』（以上のちのことば社）

聖書

創世記7・1～24

タイトル

戸が閉まる前に、救われよう！
あなたと家族とはみな箱舟には
いりなさい。 創世記7・1

目標

キリストの救いの中に入る者となる。

導入

(飯田)

夏休みもあつという間に終わりですね。海に行ったり、キャンプをしたり、家族と旅行をしたりと楽しい思い出ができましたか？楽しく遊びすぎて、「あつ、宿題忘れてた！」という人がいませんか。そういう人は、「神様、宿題を忘れていました。今から頑張りますから助けてください」と祈ってくださいね。神様は必ず助けてくださいます。

先週は、恐ろしい罪のお話でした。今、皆さんは罪から救われていますか。宿題を忘れても、罪から救われることは忘れないでください。

神様が心を痛める人

ずっと昔にノアさんという人がいました。ノアさんの周りには、神様に背を向けている人がたくさんいたのです。神様に背を向ける心でどんな心でしょう？それは、いつも悪いことばかりを考える心です。「自分だけが得すればいいや。あいつは憎たらしいな、ちよつといじめてやろう。少しぐらい嘘ついてもバレないや。…」そんな心をもっている人がたくさんいたら、どうなるでしょう？互いに助け合ったり、慰め合ったりできるでしょうか？できないよね。ですから、ノアさんが

生きていたころは、悪いことや悲しいことがたくさんあったのです。神様は、悪いことばかりを考へ行っている人を見て、心を痛められたのです。これは昔の話ですが、実は今も同じなのです。たくさんの人たちが神様に背を向けています。そして、「自分さえよければいい」という心をもっている人がたくさんいます。皆さんはどうですか？人は皆さんの心を見ることができません。でも、神様はいつも皆さんの心を見ておられます。皆さんは、神様が心を痛める人になつてはいませんか。

神様が喜ばれる人

周りの人たちが神様に背を向けて悪いことばかりしていても、ノアさんは別でした。

皆さんはどうですか？先生に「してはいけませんよ」と言われていることがあるとします。それを、友だちから誘われたらどうしますか？きつぱりと断ることができますか？それとも…。ノアさんが、悪いことに参加しなかったのは、どうしてでしょうか？これはとても大切なことです。少し考えてみましょう。それは、ノアさんが神様を信じ、神様といつも共に歩んでいたからです。そのノアさんは、神様から喜ばれる人であつたのです。私たちも神様から喜ばれる人にして頂きましょう。

神様が救われる人

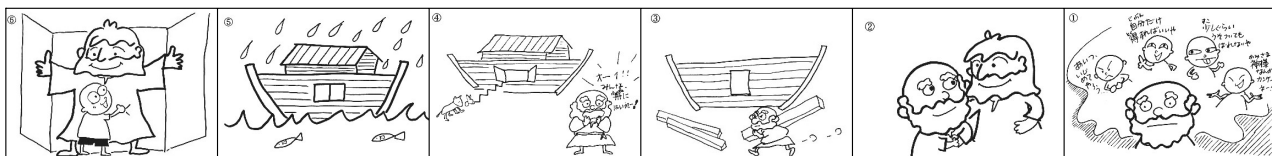
神様は、悪いことばかりしている人たちを「滅ぼす」と言われました。滅びるとは、神様の怒りを受けることです。これはとても悲しいことです。神様は、それほどに罪を憎まれるお方なのです。神様は、地上に洪水を起こして罪人を滅ぼそうとされたのです。でも神様は、罪人と神様を信じる

人とを一緒に滅ぼすことはしませんでした。神様に喜ばれたノアさんを助けると約束されたのです。その方法は、箱舟によつてでした。神様は、ノアに大きな箱舟を作るように命令されました。その箱舟は、高さ約十三メートル、長さ約百三十五メートル、幅約二十二メートルほどの舟でした。神様を信じるノアさんは、命令された通り黙々と舟を作りました。おそらく、「おい、ノア！お前、頭がへんになったのか？こんな大きな舟なんか作つて」とバカにした人たちもいたかも知れませんが、でも、ノアさんは箱舟を完成させました。すると、直後に洪水が起こつたのです。洪水を避けるために箱舟にはノアさんの家族が入りました。そして、神様が言われた動物たちが箱舟に入ると、戸が閉まつたのです。大雨は四十日間続きました。そして百五十日間、水は地上を覆つていたので、箱舟に入れなかったすべての生き物は死にました。この箱舟は、私たちの救い主イエス様のことを表しています。神様に背を向けている人たちはやがて神様の怒りを受けるのです。でも、箱舟であるイエス様を信じる人は、だれでも救われます。そして、神様と共に歩み、神様に喜ばれる人となるのです。

まとめ

皆さんは今、イエス様の救いという箱舟に入っていますか？「あつ、しまった！(閉まつた)」と気づいた時には、もう手遅れです。さあ今、イエス様を信じて救われましょう。

♪すくいの主イエスに♪
(ホーリネス・子どもさんびか95)



聖書 創世記15・1～6 テーマ 約束を信じる

序論

(福井)

神はアブラムをハランから召された時、「大いなる国民と」すると約束された(12・2)。彼は約束の成就是自分の子孫によることを知っていた(13・15)。しかし、その約束があつて後も、自分に子が与えられる気配はなく失望を感じていた。その時、神は最初の約束を繰り返し語られ、アブラムは神が示された約束を信じたのである。

一、アブラムの不安と失望

〈これらの事の後〉とは14章に記されている出来事である。アブラムは主によって大勝利を経験した。しかし、彼は恐れと不安を感じたのである。それは、戦いにおいて霊的・肉体的に極度の疲れを覚え、落ち込んだためである。また、主の恵みによって多くのしもべや財産が与えられたが、それを受け継ぐべき自分の子どもが与えられていなかったからである。

この時、主は〈恐れてはならない〉と命じられた。その理由として、〈わたしはあなたの盾である〉、すなわち、「守る」と言われた。また、〈あなたの受ける報いは、はなはだ大きい〉と、アブラムの恐れと不安に対する配慮をもって語られたのである。

アブラムにとつて、彼の子が与えられることは、神の約束として信ずべきことであつた。しかし、現実に子が与えられていないので、彼は神の約束

を完全に信じることが出来なかった。そこでアブラムは、〈わたしに何をくださるうとするのですか〉と尋ねた。そのころ、アブラムの体も妻のサラの胎も、両方とも年老いて「死」んだも同然のようなものであつた。そのためこの時、アブラムが考えていたことは、当時の習慣に従つて自分の家のしもべを相続人とするのであつた。

二、主の励まし

アブラムはしもべのエリエゼルを跡取りにと考えていた。ところが、神はアブラムに〈この者はあなたのあとつぎとなるべきではありません。あなたの身から出る者があとつぎとなるべきです〉と語られた。神はエリエゼルが跡取りになることを禁止され、アブラムを父として生れる実の子を跡取りとして与えると確約された。

しかし、アブラムは自分の中に閉じこもつていて、主のみわざを信じることができなかった。彼は年老いた自分を見、サラを見、子どもがいない現実を見て神の賜物を推し量り、これを制限あるものと考えた。神はその不信仰なアブラムを天幕から外に連れ出して言われた。〈天を仰いで、星を数えることができるなら、数えてみなさい〉。

アブラムは〈天を仰いで〉全能者にして創造者なる神の偉大さを知り、星を数えることができない人間の無力さ、能力の限界を知らされた。アブラムが、無から「天」を創造され数え切れない星を造られた主のことを考えていると、神は〈あなたの子孫はあのようにになるでしょう〉と言われた。

三、信仰による義

自分を見れば全く望みのないアブラムは、神の導きに従つて自分より目を離して、ただ神を見上げた。その時、彼は神の全能を信じることでできた。神は死んだ者を生かし、何もなかったところから天地万物を創造された。神においては何一つできないことはないからである。

〈アブラムは主を信じた。主はこれを彼の義と認められた〉。ここで初めて「信じる」という言葉が表われる。信じる意志を明確にしたアブラムは信仰の父と呼ばれるようになった。信仰の対象は神、信仰の土台は神の言葉、信仰の結果は義認である。新約聖書中、この聖句を引用して、アブラムの信仰について教えている箇所が三ヶ所ある(ローマ4・3、ガラテヤ3・6、ヤコブ2・23)。

「義」と認められたとは、全き者、罪のない者と認められたことである。パウロはこのアブラムの記事を例にとり、信仰による義について述べ(ローマ4・5)、信仰義認の教理の基礎を据えた(ローマ4章)。人が義と認められる方法は、旧約・新約を通じてただ一つ、つまり「信仰による」こと以外にはない。ダビデもそのことを歌い(詩32・1～2、ローマ4・7～8)、ハバククもそのことを語っている(ハバクク2・4、ローマ1・17、ガラテヤ3・11、ヘブル10・38)。

結論

アブラム夫妻には神の約束の子が長い間与えられなかった。これは非常に大きな試みであり、忍耐を要した。しかし、信仰は純化され、創造者であり全能者である神の約束を信じる者となった。

研究資料

(井上)

アブラハムは紀元前二千年ごろに生きていた。後に、カナン^(ハ)の地に国家を形成するイスラエル民族の父祖である。子孫の繁栄は、カルデヤのウルから導き出された神との契約の成就として与えられていった。信仰の父として、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教という三大一神教から崇敬されている。アブラハムがイサクを献げようとしたモリヤの山、葬られたマクペラの洞穴は三つの宗教の聖跡である。アブラハムという呼び名は創世記17・5で初めて出てくる。元のアブラムという呼び名はアビラムの短縮形だと言われている。アブラハムという名はアラビア語で大きな数を表すルーハムとの関連が示唆される。以下、聖書のとおりアブラム(妻はサライ)と表記する。

テキスト

1 主の言葉が幻のうちにアブラムに臨んだ 幻^(ハ)(マチャゼー) 一般的に見る夢、心に浮かぶ幻とは全く異なり、神からの啓示を表す。幻を通して神は、預言や黙示を示される。恐れてはならない 神が恐れるなど言われるのは、アブラムが恐れにつかれていたことに他ならない。カナン^(ハ)の地で、アブラムは寄る辺のない異邦人であり、寄留者であった。自分には子がなく、老齢となり、死も身近に感じていた。アブラムには本質的な不安があった。盾^(ハ)(マゲン) 当時の戦役で最も重要な防具であった。円形の小盾を表し、長方形の大盾とは区別される。木製で表に皮を張って強化されていた。盾は神の保護を表している。盾は新

約聖書ではエペソ6・16にだけ、サタンの火矢を防ぐ「信仰のたて(大盾)」として用いられている。報い^(ハ)(サカル) 旧約聖書で報いと訳される語は十種類以上あり、善い報い、悪い報いに区別されて用いられている。この語は労働に対する賃金を意味し、報酬とも訳される(創世記30・28他)。良い意味での報いに用いられる語である。

2 わたしの家を継ぐ者はダマスコのエリエゼル フルリびと(聖書中のホリびと)の法律では、子どものない夫婦はしもべを養子として迎え、老後の世話、埋葬の責任を持たせる規定があった。養子となったしもべは財産を受け継ぐことができた。フルリびとはメソポタミア北部を中心としたが、交易、文化の影響は広い地域に及んでいる。特に族長時代には法規の並行関係が見られる。アブラムは法的に、ダマスコのエリエゼルが自分の後継ぎとなることを認めていた。

5 天を仰いで、星を数えることができるなら 天^(ハ)(シャマイーム) 水の場所、上空の大洋を意味する。おおぞらの上の水(創世記1・7参照)とあるように、天が開いて地に雨が降る。旧約聖書に宇宙に当たる語はなく、大気圏、宇宙空間に関わる区分はない。天は複数形で用いられ、重層的なものとして受け止められている。最高の天が神の住まい(詩篇11・4他)と考えられた。星を数える 星を数えることができないことは、神の創造の偉大さ、無限性を表している。仰いでと、数えるは命令法で記されており、仰げ、数えよと神はアブラムに強く迫られている。あなたの子孫はあのようになろう 万物を創造し、支配され

る神の絶大な力が、アブラム、サライ夫妻に及ぶ。大いなる業が起ることを伝えられた。

6 アブラムは主を信じた 信じた^(ハ)(アマン) 確立する、根づくという意味がある。旧約聖書中、初めて信じるという言葉が表れる。アブラム以前に、神と歩んだエノク、正しい人であったノアのような信仰者はいた。信じる意思を明確にしたアブラムが信仰の父と呼ばれることがうなずける。主はこれを彼の義と認められた アブラム、サライはすでに老齢となっていた。アブラムは子どもを授かる希望が持てない状況で、神の業を信じ、神に望みを置いた。神はアブラムの信仰によって、彼を義と認められた。パウロは、アブラムの信仰による義を、信仰義認の教理の基礎に据えた。パウロは、ローマ4章で不信仰にある者が、神によって義とされるのは、イエスの十字架を救いとして信じることによると述べている。同章でアブラムが引用されているが、特にアブラムが神に義とされた時点が、割礼を受ける前の時であったことを示している。無割礼の者、すなわち律法の外にいる者も神によって義とされることをパウロは解説している。アブラムの子孫であるイスラエル民族でなくとも、アブラムの信仰に従うならば同じ祝福のうちにあることを教示した。パウロはさらにガラテヤ3章で、イエスにある神の祝福は、民族も、立場も、性別も、何ら区別なく、イエスの救いにある者はアブラムの子孫であり、神の恵みの約束を受け継ぐことを語っている。

参考図書 『Bible Student's Commentary』 Genesis Vol. 1.(Regency Reference Library) 他

聖書
タイトル
暗唱聖句創世記15・1～6
そのまま信じよう、主の約束！
アブラムは主を信じた。主はこ
れを彼の義と認められた。

創世記15・6

目 標
神が示してくださる約束を信じ
る者となる。

導入

(和田)

みんな、夏休みは楽しかったですか？ 今日
は九月最初の日曜日、「ラリー・デー」です。新学期
のために、もう一度神様からの励ましをいただ
ける日なんです！ さあ、今日、神様はみんなに何
を語ってくださるかな？

みんなはお友だちや家族と約束することがある
でしょう？ もしも「え？ ほんとかな？」って
思わず疑いたくなるような約束なら：「信じられ
ない」って思うかもしれませんよね。いや、も
しかしたら、約束を破られてがっかりしたこと
があるかも…。でも、神様は約束を必ず守って
くださるお方です！ 今日は「ほんと？」って疑いた
くなるような約束を神様からいただいた人に注
目します。それは、「信仰の父」と言われたアブラ
ム。このときは名前がアブラムでした。彼の大き
な信仰から大切なことを学びましょう。

アブラムの心配

「あ、あ…まだかなあ？」アブラムのため息が
聞こえてきそう。主なる神様はアブラムを大い
なる国民にする、とおっしゃいました。つまり、子
孫をたくさん与える、ってこと。なのに、いつまで

っても肝心の子どもが与えられません。「主は、あ
おっしやったのに、どうなってしまうんだろう…」
と、心配がどんどん大きくなっていきます。そんな
時、主が語りかけてくださったのです。「アブラム、
こわがらなくていい。わたしがあなたを守ってい
るよ」と。主はアブラムの心をよく存じで、やさ
しくお声をかけてくださったのです。そこで、ア
ブラムは一番心配していたことを主に訴えたので
す。「主よ、あなたは私に子どもをくださいませ
ん。だから、このままでは私のしもべが跡取りにな
ってしまいますよ」。跡取りというのは、アブラム
が亡くなったならそのお金や持ち物を譲り受ける人
のことです。本当ならアブラムの子どもが跡取り
になるはずなのです。でも、アブラムには子どもが
いない。アブラムは神様の祝福によって多くの持
ち物や家畜、お金を与えられていました。なのにそ
れが全部他人のものになってしまふなんて…。何
とかならないものかと、心配でたまりませんでした。

信じられないような約束

そんなアブラムに主は、はっきりとこうおっし
やったのです。「いや、あなたの子どもの跡取りに
なるのだ」と。そして彼を外に連れ出して「天の
星を数えられるなら、数えてごらん」と。みんな
は電気も全然ついていない野原か山奥のようなと
ころで、晴れた夜に星空を見上げてみたことがあ
りますか。空気がきれいで真つ暗な場所なら、も
う、もののすぐ近くたさんの星が見えるのです！
アブラムは今から四千年も昔の人。車や工場もな
く、空気はきれいだったし、電気もなかったから、
アブラムの頭の上にはちよくたさんの星がキラ

キラ輝いていたはずですね。「数えられるはずがな
いよ…」。アブラムはそう思ったに違いありません。
そんな彼に主は信じられないような約束をされた
のです。「あなたの子孫はあのようなになる」と。ま
だ一人も子どものいないアブラムに、数え切れな
い子孫が与えられる!? しかも、彼はこの時すでに
年老いていて、子どもができるはずがない体だっ
たのです！ こんな約束、彼の立場ならだれだって
「信じられない！」って思うはずですよ。

主の約束を信じたアブラム

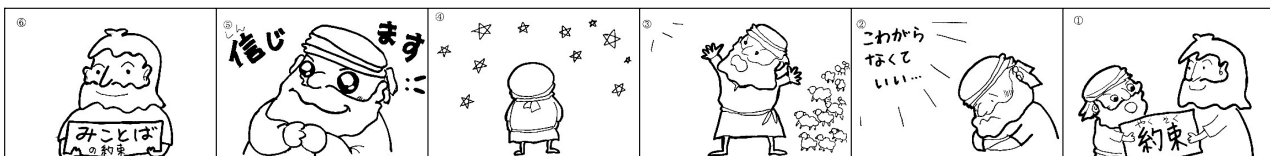
ところが、な、な、なんと、アブラムは主の約
束をそのまま信じたのでした！ 「主なる神様なら
できる！」と。「主は真実なお方。主が約束された
のだから、必ずそのとおりになる！」と。アブラ
ムが主を信じる信仰を、主は喜ばれたでしょうか？
もちろん！ そして主は、アブラムを「罪のない者、
正しい人」とお認めになったのです！ 「義と認め
られた」とはそういうことなのです。

アブラムが良い行いをしたからではありません。
ただアブラムが主の約束を、そのま・ま・ま信じ
たので、主は彼を義と認めてくださいました。そ
れほど大切なことなのです、主を信じることは！

結び

君はアブラムのように、どんなに信じられない
ようなことでも、主の約束ならそのまま信じます
か？ そう、それでいいのですよ！ 主は必ず約束を
守ってくださる真実なお方！ だから、君が裏切ら
れるなんてこと、絶対ないのです！

♪信仰はなんてすばらしい♪
(ふくいんこどもさんびか2グロージング・ソング25)



聖書 創世記28・10～22 テーマ 共におられる神

序論

(福井)

ヤコブには双子の兄エサウがいた。ところが、ヤコブは空腹のエサウから食物と引き換えに長子の特権を奪った。その後、すでに視覚を失っていた父イサクをだまし、兄エサウに成り代わって長子の祝福を横取りした。恨みと怒りに満ちた兄を避けるため、母リベカはヤコブを花嫁探しに自分の故郷へ旅立たせた。その旅の途中でヤコブは神に出会い、共におられる神を信じる者となった。

一、孤独な旅

ヤコブはエサウを逃れてベエルシバからハランに向かった。彼は一日路来たところで野宿した。その所は、彼の見た夢のゆえにベテルと名づけられた。ベテルの町の名は、もとはルズで、異教徒の町であった。

生れて初めて旅をするヤコブにとっては、異教徒の町ルズで一夜を過ごすことは恐ろしかったであろう。それに、エサウの追っ手が来るかもしれないという恐れがあった。さらに、これから先の旅のことを考えると不安でもあった。

彼は恐れと不安の入りまじる孤独の中で、自らの過去と将来を思い、自らの犯した罪を思い起こしてしばらく寝つかれなかった。しかし、旅の疲れも加わって、いつしか眠ってしまった。

その最初の夜、彼にとっては不思議な夢を見た。そのヤコブが見た夢とは、(一つのはしがが地の上

に立っていて、その頂は天に達し、神の使たちがそれを上り下りしている)のであった。(はし)は天からのもの、神からのものであり、神の恵みによって天と地をつなぐ、見える「ぎざな」であった。(神の使たち)は神と人との間の交流の使者であり、助け手であった。

二、神の祝福と約束

ヤコブが見た夢の中で、神は彼の傍らに立っておられ、彼に語りかけられた。(わたしはあなたの父アブラハムの神、イサクの神、主である)。ヤコブは、祖父アブラハム、父イサクの信じた神のことをよく聞かされていたことだろう。しかし、この時まで彼は個人的にこの神を知らなかったのである。不安と恐れとざんげの情の入り混じった彼の心は、神の声を聞き、彼の霊性は覚醒された。その結果、親ゆずりの伝統的信仰より自覚ある個人的信仰へと導かれ、アブラハムの神、イサクの神は「ヤコブの神」となってくだった。

神はこの時、ヤコブを選民の祖として祝福された(13～14)。それは、①(あなたが伏している地を、あなたと子孫とに与えよう)。②(あなたの子孫はちりのように多くな)る。③(地の諸族はあなたと子孫とによって祝福をうける)というものであった。さらに、神はヤコブ個人に約束された。それは、①臨在、②保護、③帰還、④約束の言葉

を必ず成就するというものであった(15)。これから先どうなるかと、不安と恐れの中にあつたヤコブにとって、神の祝福と約束は大きな慰めと激励になり、勇気づけられたに違いない。

三、ヤコブの応答

ヤコブは眠りから目覚めた時、肉体の眠りから覚めただけでなく、霊の眠りからも覚めた。そこで(まことに主がこの所におられるのに、わたしは知らなかった)と言った。ヤコブはエサウを避け、家族から離れてこの所に来たので自分は一人だと思っていた。また、自分の罪のため神からも見捨てられたのではないかと考えていた。

ところが、その彼が神にお会いすることによって圧倒されたのである。それで、(これはなんという恐るべき所だろう)と言い、だれも住んでいないと思われた荒野を、(これは神の家である。これは天の門だ)と言った。これは恐れと敬虔(けいけん)の叫びである。

ヤコブはこの主の臨在の体験を記念して三つの重大な行動によって応答した。①神に臨在と保護の啓示を受けた記念として、枕に使った石を柱として立て、それに油を注いで聖別した(18)。②その地をベテル、つまり(神の家)と呼んで彼の救いの記念とした(19)。③彼は神が臨在の約束を守り、必要を満たし、父の家に無事に帰らせてくださるなら、十分一のささげものをしますと、条件付ではあるが、自発的に、信仰告白をし、誓いを立てたのである(20～22)。

結論

神の恵みは無条件であるのに、ヤコブの信仰は条件付であった。彼は、まだまだ砕かれていなかった。だから彼にはその後の苦勞が必要であり、ベニエルの経験(32・22～32)が必要であった。

研究資料

(井上)

アブラハムからイサクが、イサクからヤコブが生れた。アブラハムの孫であるヤコブがこの箇所の主人公である。ヤコブには双子の兄エサウがいた。長じてエサウは狩獵者となり、ヤコブは天幕で暮らしていた。エサウが疲れ、空腹で野から帰ってきたときに、ヤコブはレンズ豆のあつものを煮ていた。ヤコブはエサウに長子の特権を引き換えとして、食物を与えた(創世記25・29以下参照)。その後、ヤコブは母リベカの勧めに従って、盲目となつた父イサクをだまし、兄エサウに成り代わつて長子の祝福を受けた(創世記27章参照)。祝福を奪われた兄エサウはヤコブを激しく憎み、殺そうと考えた。母リベカはヤコブの安全のために一計を案じ、花嫁探しのために、自分の故郷へとヤコブを旅立たせた。以上がこの箇所の背景である。

テキスト

10 ベエルシバ 七つの井戸あるいは誓いの井戸の意。ベエルは井戸であり、シエバは七つとも誓いとも取ることができる。アブラハムが掘った井戸であり、ぎょうりゅうの木を植えて記念とした(創世記21・25以下参照)。ヘブロンから南西43kmの現在のテル・エ・セバとされる。**ハラ**ン メソポタミア北部の町。カラシ(使徒行伝7・2)とも表記。ユーフラテス川の支流バリク川に沿う現在のハラシであると考えられる。ここにヤコブの母リベカの実家があった。ベエルシバからは500km以上の旅路であった。

11 まくら(マラシヨート) 字義的には頭を置く場所と訳す。枕元、頭とも訳される。

く場所と訳す。枕元、頭とも訳される。

12 夢をみた(ヘチャラーム) 夢は何気ないものも多いが、神は夢を通して啓示を表されることがある。聖書には、この時のヤコブの夢、少年ヨセフが見た夢、マリヤの夫ヨセフが見た夢など多くの例示がある。一つのはじが地のの上に立っていて、その頂は天に達し、神の使たちがそれを上り下りしているのを見た はしごは天と地、すなわち神と人間をつなぐぎざなであり、神の使いは助け手である。イエスは、ナタナエルに「天が開けて、神の御使たちが人の子の上に上り下りするのを、あなたがたは見るとであろう」(ヨハネ1・51)と言われた。この言葉は明らかにヤコブの夢を前提にしている。「主は天地の間に立てられた梯子はしごであります。ナタナエルは主によりて天に登ることを得ます」(B・F・バックストン『ヨハネ伝講義』)。イエスの十字架の救いは天と地、神と人間をつなぐはしごである。**13 主は彼のそばに立つて言われた** ヤコブの見た夢の中に神の姿はなかった。超自然的な感覚であらうが、ヤコブは神の臨在を感じることができ、神の声を聞いた。わたしはあなたの父アブラハムの神、イサクの神、主である 神はご自分を顕現される時に、ご自分が何者であるかを明らかにされる。ヤコブは、祖父や父が体験した証しを聞いて育った。しかし、ここで初めて、神ご自身とあいまみえる経験をしたのである。

14 あなたの子孫は地のちりのように多くなつて 数えられないものの象徴として地のちりが語られている。祖父アブラハムには星を数えよ(先週の研究資料参照)と語られた。神の約束は変えられ

ることがない。地の諸族はあなたと子孫によつて祝福をうけるであらう 祖父アブラハムに語られた祝福の基となるとの約束(創世記12・2)が、改めてヤコブにも語られている。

15 わたしはあなたと共にいて、あなたがどこへ行くにもあなたを守り、あなたをこの地に連れ帰るであらう ヤコブの旅立ちに際して、臨在の神による守りと、帰還の約束がなされた。後のモーセによるエジプト脱出、バビロンからの解放など、ヤコブの子孫に対しても神の約束は不変であった。**17 恐るべき**(ヘヤーレー) 恐れという感情は普段の様々な場面で起こるが、聖書で述べられる恐れには、神を畏れかしこむ敬虔からの恐れがある。この語も神を畏れる思いとして用いられている。

神の家(ヘベス・エロヒーム) 詩篇84・10に、神の家の門守となることを願うという表現がある。神が宿る聖地ということではなく、より広く受け止めるべき言葉であらう。**天の門** という言葉と共に、この時の神の顕現、祝福の約束の記念としてヤコブは語った。

18 まくらとしていた石を取り、それを立てて柱とし、その頂に油を注いで 崇拜の対象ではなく、神の恵みの記念碑としての行為である。

19 ベテルと名づけた エルサレムから16kmにある現在のベイトインとされる。

20 誓いを立てて言った 条件付きではあるが、ヤコブは自発的に、信仰の応答を表明した。

参考図書 『Bible Student's Commentary』Genesis Vol.2.(Regency Reference Library) 他

聖書

創世記28・10～22

タイトル

「気づいて！ひとりじゃないよ！」
まことに主がこの所におられる
のに、わたしは知らなかった。

目標

共におられる神を信じる者となる。
創世記28・16

導入

(和田)

みんなのお友だちや親せきの中に、双子の子たちっているかな？ 今日のお話で注目するのは、双子の弟のヤコブです。先週アブラムについて学んだよね。後でアブラハムと名前が変えられました。が、その息子のイサクの、そのまた息子がヤコブなんだね。彼のお兄さんはエサウ。実は、ヤコブはエサウ兄さんからもすごく憎まれるようになりました。ヤコブたちの時代は、そのお家に最初に生まれた男の子、つまり長男は、他の兄弟よりもずっと大きな祝福を受け継ぐことになっていたのです。お父さんがエサウ兄さんに祝福の祈りをしようとしたとき、ヤコブはお母さんと力を合わせて、エサウのふりをし、お父さんをだまして祝福を奪ってしまったのです。さあ大変！ エサウは「おのゝれえ！ いつかヤコブを殺してやる！」と怒りに燃えています。ヤコブは、遠く離れた町、お母さんの故郷に向かって一人で旅立ちました。エサウから逃れるために…。

ひとりぼっちのヤコブ

とぼとぼと、ひたすら歩いて、歩いて…。ヤコブは一日中歩きました。気がつくと思知らぬ町に來ています。ルズという町でした。とうに日も暮

れて、疲れ切つて、もう一歩も歩けません。でも、だれも知っている人がいないのです。野原で寝るしかありませんでした…。

生まれて初めて旅をするヤコブ。見ず知らずの町、しかも、主なる神様を信じない人々の町。お母さんが大好きで頼り切っていたヤコブは、そのお母さんとも離れて、本当に一人ぼっち。この時ほど、「さびしい〜」って思ったことはなかったでしょう。しかも、「もしエサウ兄さんの使いが追いかけて来たら…」そう思うとますます怖くて、悲しくて、さびしくてたまりません。

ひとりじゃないよ！

涙がほほをつたって、石の枕がぬれました。体も心もくたくたで、いつしか眠りについたヤコブ。すると、夢の中で一つのはしごが見えたのです。それは、天と地をつなぐ長いながいはしごでした。よく見ると、天使がそのはしごを上り下りしているではありませんか。そしてなんと、その夢の中で神様がはつきりとヤコブに語りかけてくださったのです。「ヤコブよ、わたしはアブラハムの神、イサクの神である主だ。わたしはこの地をあなたとあなたの子孫に与えよう。わたしはあなたと共にいる。ずっと一緒にいるのだよ。あなたを決して捨てはしない！」。

夢から覚めたヤコブは言いました。「本当に主がここにおられるのに、私は知らなかった」と。おじいちゃんやお父さんから聞いてはいた主なる神様が、私に直接語りかけてくれた。やつぱり、本当に主は生きておられる。そして、私と共におられる。一人じゃないんだ！

もうこれまでのヤコブとは違います。心が、魂

が眠ってしまったようなヤコブでしたが、もうすっかり目覚めました。枕にしていた石をとって柱とし、油を注ぎ、その場所をベテル、つまり「神の家」と名付けました。主を心から信じ、精いっぱい主にお答えする気持ちの表れでした。ヤコブの内に慰めと勇氣、喜びがあふれました。だって、「二人じゃない！ 主が共におられる！」って、はつきりわかったのですから！

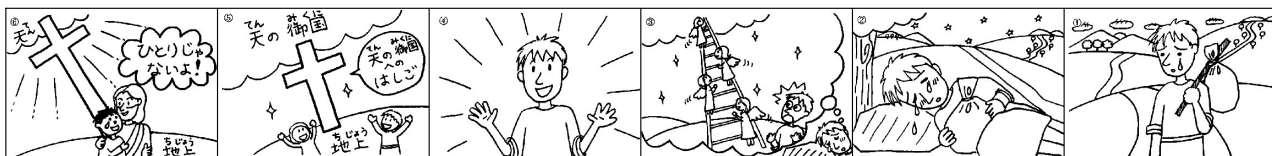
気づいて！ きみも！

さて、ヤコブの夢の中で天と地をつなぐはしごがありましたね。そんなはしごは人間の手では作れません。つまり、神様の方から降って来てくださらないと、私たちの方からは天の御国に登って行くことができないのです。だからこそ、イエス様がこの地上にお降りくださり、お生まれくださったのです。そして、十字架で命を投げ出して、私たちが天の御国に登って行ける「はしご」になってくださったのです。イエス様は「わたしは、決してあなたを離れず、あなたを捨てない」とおっしゃいました。そうです！ ヤコブが一人ぼっちじゃなかったように、君もいつもイエス様が共にいて支えてくださっています。主は、今、君にも気づいてほしいんですよ。「ぼくは一人ぼっちじゃない、イエス様がいつも一緒にいるんだ」ってね。

結び

友だちからいじめられたり、仲間外れにされたり、お家の人からきつく叱られたり、兄弟とけんかしたり…。「一人ぼっちだ」って思いそうな時、思い出そうよ！ イエス様は今も、君と一緒にいて！ だから、絶対大丈夫！

♪気づかなかった♪ (イン・教会学校さんびか34)



聖書 創世記45・1～15 テーマ 神の見えない手

序論

(福井)

この箇所はヨセフ物語のピークである。創世記37章2節から創世記の最後まででは、ヤコブの下から二番目の息子で、彼の最愛の妻ラケルの生んだヨセフの物語である。彼は兄たちに奴隷としてエジプトに売られたが、22年後、飢饉のために食料を買いに来た兄弟たちに宰相として対面した。

一、ヨセフが身を明かす

ヨセフは、ユダが語った「しもべをこの子供(ベニヤミン)の代わりに、わが主の奴隷としてとどまらせてください」(44・33)という真実な訴えを聞いた。ヨセフは兄弟たちが真に悔い改めていること、心から父を愛し、互いに愛し合っていることを知った。その時、兄弟たちを前にして、ヨセフは自分を制しきれなくなった。そこで側近のエジプト人を去らせ、大声で泣き、「わたしはヨセフです」と自らを明かした。

ヨセフが通訳を使わずに、ヘブル語で自分の身を明かすと、兄弟たちは答えることが出来なかった。兄弟たちには、彼がヨセフだとすぐには信じられなかったのである。彼らはエジプトの宰相がヨセフであったという事実の前に、ただ愕然として、とまどい、「驚き恐れ」るばかりであった。

よく見ると、確かにどこことなく昔のヨセフの面影が残っている。そのヨセフの口から何一つ責める言葉が出てこなかった。それなのに兄たちが恐

れたのは、自分たちのした過去のことを思い出されたからである。彼らはかつてヨセフを殺そうとした。そして今、逆にヨセフに殺されるのではないかという不安が彼らに浮かんできたのである。

二、神の摂理

とまどって恐怖におののく兄弟たちに対して、ヨセフは「わたしに近寄ってください」と勧めた。そしてもう一度、「わたしはあなたがたの弟ヨセフです」と念を押して告白した。

そこでヨセフは、①「しかしわたしをここに売ったのを嘆くことも、悔やむこともいりません」と言って慰めた。②「神は：あなたがたよりさきにわたしをつかわされたのです」(5)。「神は：あなたがたよりさきにわたしをつかわされたのです」(7)。「それゆえにわたしをここにこにつかわしたのはあなたがたではなく、神です」と、神が自分を遣わしたのだと語った。③「神は、あなたがたのすえを地に残すため、また大いなる救をもつてあなたがたの命を助けるために」と、遣わされた目的を語った。④「神はわたしをバロの父とし、その全家の主とし、またエジプト全国のかたとされました」と、神によって今の地位についているとの信仰を告白した。

ヨセフは、自分は決して復讐など考えていないこと、兄たちを赦していることを得心させるために、神の摂理についてこのように語ったのである。

三、ヨセフの愛

ヨセフはなお五年間の飢饉が続くことを考え、

父や兄弟たちが餓死から守られるように心を配る。そこで、彼は父への伝言のため、兄弟たちに急いで帰郷するよう命じた。伝言の内容は、神がヨセフをエジプト全家の主とされたこと、ヤコブにためらわずヨセフのところをきてほしい(9)ということであった。そうするならば、ゴセンの地に住み、ヤコブとその子らも、孫たちも、羊も牛も、その他のものもみな、ヨセフのそばにあって、みんなを養うというものだ(10・11)。

ヨセフは、愛する妻を失いヨセフに先立たれたと思ひ込んでいた父ヤコブを、いかにして慰めようか喜ばせようか、という思いで心が一杯であったと思われる。しかし、それだけでなく、自分をエジプトに売った兄弟たちを赦し、彼らのためにも愛を示した。このようなどんでん返しの中でも、「神がわたしをエジプト全国の主とされたから」と、すべての栄光を主に帰している。

それからヨセフは愛する弟の首を抱いて泣いた。他の兄弟たちにも口づけし、抱いて泣き、肉親に対する愛を現わした。「そして後、兄弟たちは彼と語った」。和解の喜びの後、本当の愛の交わりを回復した。

結論

ヨセフはエジプトの宰相として兄弟たちと対面した。しかし彼は、宰相の地位を「わたしの苦勞の結果」とは思わなかった。「神は……ここにつかわされたのです」(5、7、8・9)と語り、苦難の中で摂理の御手で導かれる神を学び、信じたのである。

研究資料

(井上)

先週はヤコブを取り上げたが、ヤコブの息子ヨセフが主人公となる。ヤコブには妻のラケルとレア、つかえめのビルハとジルパから、12人の息子が生まれた。ただでさえ異母兄弟の間で争いは起きやすい。その上、ヤコブは最愛のラケルの子どもたちを大切にし、特にヨセフを偏愛したようである。このことは、兄弟にねたみを、ヨセフに高慢を生み出した。ヨセフは、兄弟のみならず両親もヨセフを拜する夢を見た(創世記37・5以下参照)。他の兄弟たちのねたみによって、ヨセフは奴隸としてミデアン人の隊商に売られ、エジプトに連れられていった。侍衛長ポテパルの家で仕え、無実の罪で捕らえられたが、パロの夢を解き明かし、今後の政策を示して、全国の司にまで取り立てられていた。パロの夢は広域のききんについてであり、カナンの地にもききんは激しく臨んだ。ヤコブの息子たちが食料の豊富なエジプトに、二度目の買出しにやって来たことが背景となる。

テキスト

1 ヨセフはそばに立っているすべての人の前で、自分を制しきれなくなった 兄弟たちは、まだエジプトの司がヨセフであることに気づいていなかった。ヨセフは同じ母を持つ弟ベニヤミンを自分の元に置こうとする。ユダは自分が身代わりとなつて、年老いたヤコブが愛する末弟を、カナンに連れ帰らせようとした(創世記44・18以下参照)。ユダは、かつて無慈悲にも兄弟ヨセフを奴隸として売った張本人であった(創世記37・26〜27)。老

齢の父ヤコブのために身を投げ出そうとするユダの大きな変化が、ヨセフの心を揺り動かした。

ヨセフが兄弟たちに自分のことを明かした 自分を売った兄弟をヨセフは試みていた。エジプトの宰相として兄弟に対してきたヨセフであった。兄弟たちの誠実さに打たれて、自ら弟ヨセフであることを明らかにした。

2 ヨセフは声をあげて泣いた 奴隸として売られた少年の日から、今日に至るまでの、困難な長い旅路があった。このような形で兄弟と対面すること、ヨセフは万感迫るものがあつた。

3 彼らは驚き恐れた かつてヨセフに残酷な仕打ちをした兄弟たちは、エジプトの強大な権威を持つヨセフの復讐をおじ恐れた。

4 わたしに近寄ってください ヨセフは兄弟たちの心配を察して、自分には危害を加える意思が全くないことを示そうとした。

5 神は命を救うために、あなたがたよりさきにわたしをつかわされたのです ヨセフはエジプト行きが、兄弟たちの悪意を越えて、また罪さえも用いられて、神の大きな御業の一環となつていったことを、兄弟たちに示した。

6 この二年の間、国中にききんがあつたが、なお五年の間は耕すことも刈り入れることもないでしょう パロの夢をヨセフは解き明かしていた。神はエジプトでの七年の豊作、続いて七年のききんを示された(創世記41章参照)。七年の豊作は終り、ききんも三年目となつていった。

8 わたしをパロの父とし 訳のとおり、ヨセフがパロの父となつたというこは理解できない。

ヘブル語で父はアブであり、エジプトの言葉で大臣はアブーである。ヨセフはパロの大臣であるとエジプトの用語で言つたのに、兄弟たちはヘブル語でパロの父と聞き取った可能性がある。 **つかわした(ヘンヤラク)** 5節から8節までの短い文節に三回用いられている。ヨセフがエジプトに連れてこられたのは、神の意志と計画によるものであることを、繰り返し、強調している。

9 父のもとに急ぎ上つて言いなさい 老齢となつたヤコブと、カナンの激しいききんを、ヨセフは気遣い、早く安全なエジプトの地に來させようとした。

10 ゴセンの地 ナイル川デルタ地帯の東部を指し、牧畜に適していた。よく解つてはいないが、現在のザガジグから東のビッテル湖に至る地域であると言われる。

12 あなたがたと弟ベニヤミン 同母ラケルから生まれた弟ベニヤミンを、他の十人と区別している。

14 ヨセフは弟ベニヤミンのくびを抱いて泣き ヨセフはここまで理性的に振舞つたが、弟懐かしさの思いが良く表されている。

15 そして後、兄弟たちは彼と語つた ヨセフと兄弟たちとの再会という大きな場面は、ひとまず落ち着いた。これまでの数奇な日々をヨセフは兄弟に語つた。兄弟たちはヨセフがいなかったカナンでの日々を語つた。これからのエジプトでの一族の生活について語り合ったことであろう。

参考図書 『Bible Student's Commentary』 Genesis Vol.2 (Regency Reference Library) 他

聖書
タイトル
暗唱聖句

創世記45・1～15

導かれるよ！見えない御手で
わたしをここにつかわしたのは
あなたがたではなく、神です。

創世記45・8

目標
摂理の御手で最善に導かれる神
を信じる。

導入

(和田)

みんな覚えているよね。ラリーデーにはアブラハム、先週はその孫のヤコブに注目しました。今週はヤコブの息子のヨセフにちゅうもくく！ヤコブの十二人の息子の中から二番目がヨセフ。彼はお父さんのヤコブから一番愛され、えこひいきされていました。当然、お兄さんたちはブンブン！「なにさ、ヨセフばかり！」「しかも、ヨセフは夢で、お兄さんたちがヨセフを拝む様子を見て、それをそのままお兄さんたちに話したのです。」「むむむ、なまいきなやつめ！」「お兄さんたちはますますヨセフをねたみ、憎むようになりました。どうなっちゃうの？ヨセフ…」

「ふん！あんなやつ、殺してしまえ！いや、殺したって何の得にもならない。奴隷として売ってしまえばいいんだ！」ヨセフはお兄さんたちにねたまれて、とうとう売り飛ばされてしまったのです。まだ子どもなのに！お兄さんたちは、父ヤコブに嘘をつき、ヨセフは獣にかみ殺されたということにしました。ヤコブはヨセフが本当に死んでしまったと思つて、来る日も来る日も泣きました…。ヨセフはエジプトで、王様の家来のお家で仕えることになりました。真面目に働き、主人に大変

喜ばれましたが、無実の罪で牢屋ろうやに入れられてしまいます。悪いことをしていないのに、「罪を犯した！けしからん！」と、捕らえられたのです。

その牢屋にいたことがきっかけで、ヨセフは、エジプトの王様パロの夢を解き明かすことになりました。神様はパロの夢によって、やがて大飢饉だいきこうつまり食糧が何にも採れなくなる時が来る、と示されたのです。ヨセフの中にとてつもない力を感じた王様は、彼を王様の次に偉い全国のかさとしたのです。

お兄さんたちとの再会

そんなことは全く知らないお兄さんたちが、食糧を買いに二度目にエジプトにやって来た時のことです。お兄さんたちは、目の前にいるエジプト全国のかさが、まさかヨセフだなんてぜんぜん気づいていません。ヨセフを売り飛ばしてから二十年以上経っていましたね。ヨセフは、弟のベニヤミンを奴隷としてエジプトに残し、お兄さんたちは国に帰るよう命令します。でも、そこではお父さんのヤコブが、特に末息子ベニヤミンの帰りを今か今かと待っているのです。兄の一人、ユダが言いました。「どうか、この子を国の父のもとへと帰らせてやってください。この子が戻らなければ、年老いた父は悲しみのあまり死んでしまいます。私を代りに奴隷にしてください！」このユダは、あのとき「ヨセフなんて売ってしまったえ！」といった張本人でした。

神さまの導きを信じるヨセフ

「愛のかけらもなかったユダ兄さんが、こんなにもお父さんをおもって自分を犠牲にしようとしている…。」ヨセフの胸はゆさぶられました。

「みんな、ここから出てください」。お兄さんたちの他はみな、部屋から出されました。とたんに、「うおっ…！」ヨセフは大声を上げて泣き出しました。そしてこう言つたのです。「お兄さん、私はヨセフです。お父さんはお元気ですか。」「ええっ…!!」(まっ・まっ・まっ・まさかあ…!)驚きのあまり声も出ないお兄さんたち。みんながお兄さんたちの立場なら、どう思う？(ヨセフに仕返しされるに違いない！殺されるかも！)。

ところが、ヨセフの愛に満ちた優しい声…。「私を売ったことで自分を責めないでください。何もかも、神様のお取りはからいだつたのです。私がここへ来るようにしたのも、ほんとうは兄さんたちでなく神様なのです。あと五年は、種まきもできないし、収穫もありません。それでもみんなの命が救われるように神様が備えてくださいました。そうです！私をここにつかわしたのは、あなたがたではなく、神様です！」。

何という愛でしょう！ヨセフはお兄さんたちを心から赦ゆるしていました。神様が、その見えない手ですべてを導いてくださったと信じていたからです。お兄さんたちの悪巧みさえも用いて、神様が一番良いようにお取りはからいくださった、と！

結び

今も神様は、見えない手で私たちを導いていてくださいます。「最悪！どうしてこんなことが…!」と思いたくなるようなこともあるかな？でも神様はちゃんとお取りはからいくださって、それがなくてはならなかったかのように、最善に導かれるんです！だから、神様を信じ、従おう！

♪神さまの声きこえるかい♪(イン・教会学校さんびか84)



聖書 ヨハネ3・1～15 テーマ 新しく生まれる

序論

(福井)

ニコデモは当時宗教的にも社会的にも知識と経験に富む、高い地位を得た、ユダヤ人を代表する人物であった。その彼がイエスを「先生」と呼び、教師として最高級の人物と尊敬していた。しかし、彼にはイエスが人を新生し、霊的命を与えるメシヤ(救い主)であるという認識に欠けていた。

一、ニコデモのイエス理解

ニコデモは「パリサイ人」であった。パリサイ派の人は、ユダヤ教の正統的な信仰を持ち、旧約聖書の権威を信じ、それを実践している立派な人というイメージがあった。また、彼は「ユダヤ人の指導者」、つまりユダヤ人議会の議員でもあった。ユダヤ人議会は、ユダヤ人の政治的議会であり、ユダヤ教の最高の議会でもある。だから、彼は人々から尊敬され、有力で有名な人物でもあった。彼は自分の社会的立場、人々に対する面子、体裁を考え、人目を避けて夜こっそりイエスのところに来たと思われる。彼はイエスに会う必要、飢え渴きを覚えて自らイエスを尋ねて来た。彼はイエスを「先生」と呼び、最大級の尊敬の念を込めて教師として認めている。そのお方から教えを得ようと求めて来たのである。

ニコデモはイエスを、「神からこられた教師」、「神が一緒である、だれ一人出来ない(しるし)」（奇跡）を行うお方と理解していた。彼はイエスの奇

跡を見たことによってイエスを非常に高く評価していた。しかし、彼にはイエスがメシヤであるとの認識に欠けていた。

二、水と霊による新生

そこで、イエスは答えて、「よくよくあなたに言うておく。だれでも新しく生れなければ、神の国を見る事ができない」と言われた。このところで「新しく」と訳されているギリシア語は「アノセンで、上からの、天からの」という意味でもある。これは神により新しく生まれる、霊的誕生を意味する。人が生まれながらに持っている肉体的命ではなく、神から与えられる霊的命のことである。ところが、ニコデモにはイエスが「新しく生まれる」と言われたことが皆目分からず、肉体的な誕生のことしか考えつかなかった。彼は、「人は年をとってから生れることが、どうしてできますか。もう一度、母の胎にはいつて生れることができますか。しょうか」と、的外れな答えをしている。

そこで、イエスはもう少し詳しく説明された。「だけれども、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることができない」。ここで、「水」とは①悔い改めと信仰告白、②み言葉、③御霊を指すと解し、「水すなわち御霊」、など考えられる。いずれにしても、水と御霊による心の刷新(根本的変化)とその結果による霊的真理への目覚め、つまり神が与える霊的命を得ることが新生である。

三、新生の説明

イエスはニコデモが聞いた内容に当惑し、不思議に思っている(7)ことに對して、「風」を例として用いられた。風は吹いていても、目で見ることができない。そんな風でも音なら聞くことができるし、そよぐ木々を見れば今風が吹いているのだと分かる。そのように、御霊による新生も、人間の目で見ることができない。しかし、御霊が新生させてくださると、その人の人生がすっかり変わるの、だれの目にもよく分かるのである。

しかし、ニコデモはまだイエスの言っておられることが理解できなかった(9)。そこでイエスは、イスラエルの民が昔、経験した故事を引き合いに出された(民数記21・4～9)。食物と水の不足に對して民は指導者モーセに逆らった。そこで神は罰として、彼らに毒蛇を送り、それにかませられたので、つぶやいた多くの者が死んだ。民は自分たちの不従順の罪を悔い、モーセにとりなしの祈を乞うた。モーセが祈ると、神は、あの毒蛇と同じ形をした蛇を青銅で作り、それを旗ざおの上につけるように命じられた。そして、毒蛇にかまれ苦しんでいる人が、その青銅の蛇を仰ぎ見ると救われたのである。それと同じように、十字架に上げられたイエスを信じて、仰ぎ見る者はだれでも、救われ、永遠の命が与えられて、神の国に入ることができるのである。

結論

イエスは、だれでも、イエスに対する信仰によって新生し、罪とその結果の永遠の刑罰から自由にされ、永遠の命を与えられて神の国に入ることができ、ことを教えられたのである。

研究資料

(井上)

ヨハネによる福音書は、共観福音書と呼ばれるマタイ、マルコ、ルカによる福音書と比べて独自な点が多い。本箇所が登場するニコデモもヨハネのみが記している。

テキスト

1 パリサイ人 パリサイの語源は分離された者たちという意味であるが、何から分離されていたかについては諸説がある。パリサイ人が律法を厳守し、律法にかなわない人々から分離されていたと考えられている。パリサイ人は成文律法だけではなく、口伝律法も同等に受け入れていた。**ニコデモ**(**𐤩𐤊𐤍𐤏𐤍**) 人々の勝利者という意味がある。ギリシヤ名であるが、ユダヤ人には普通に見られる名前である。**指導者**(**𐤓𐤕𐤕𐤓𐤕𐤓𐤕**) 支配者、指揮官などの意味もあるが、ここではサンヒドリンの議員を指している。地方には小法廷であるサンヒドリンがあったが、エルサレムの大サンヒドリンは71人の議員からなる。ユダヤの最高自治機関であり、最高法廷であった。

2 夜イエスのもとにきて 保守派、旧守派のパリサイ人は、宮きよめを行なったイエスを敵視した(ヨハネ2・14以下参照)。ニコデモはイエスに教えをこう姿を仲間に見せるわけにはいかず、權威ある民の指導者としての外聞もあった。世の光であるイエスの元に、暗い夜訪問したニコデモの姿は、彼の心の闇を象徴している。**先生、わたしたちはあなたが神からこられた教師であることを知っています** まわりくどく聞かえる。ニコデ

モは、ためらいながらも、それを越えて、わざわざイエスに会いに来たのであった。漠然とであったとしても、イエスの内に真実を見出していた。**3 よくよくあなたに言っておく** イエスが強調されるとき使う表現で、ヨハネが特徴的に書き残している。ヨハネ福音書中に24回用いられている。

新しく生れなければ、神の国を見ることはできない ニコデモのあいさつに対して、イエスの答えは唐突に聞こえる。イエスの関心はニコデモの魂にあった。ニコデモの必要を大胆に指摘されている。霊的な新生についてである。新生は神学用語であって、聖書中には使われていない。イエスとニコデモとの対話は、新生の教理を導き出す最有力の聖書箇所である。悔い改めと信仰によって、新生はなされる。「新しく生まれる」は、再び生まれる、上から生まれるとも訳される。内容的には、再び、神によって、新しく生まれるのである。

4 人は年をとってから生れることが、どうしてできますか ニコデモはイエスの言葉を、この世の規準で測って不可能だと言っている。イエスの言葉は、神の規準で捉えなければならぬ。年令を条件に持ち出すこの言葉から、ニコデモは相応の年配であったと推測される。

5 水と霊とから生れなければ この言葉は多くの解釈を生んできた。旧約聖書に表されている水の働きの重要点は、心の悪や罪を洗い清めることである(エレミヤ4・14、エゼキエル36・25他)。比喻として、水が汚れを洗い流すように、聖霊が心に働いて、新しく生まれ変わることができる。**8 風は思ひのままに吹く** 風は目には見えな

しかし、風が吹く時に音が聞こえ、風の流れを感じることはできる。聖霊も目には見えないが、その働きを否定することはできない。風(**𐤓𐤕𐤕𐤓𐤕𐤓𐤕**)は聖霊と訳すことが圧倒的に多いが、この文脈では風と訳されなければ意味が通らなくなる。

9 どうして、そんなことがあり得ましょうか ニコデモはなお疑問を持った。しかし、ニコデモは疑問を持つても、イエスを否定しなかった。イエスの言葉を理解しようと反芻し続けたと思われる。後にニコデモは、イエスに対するパリサイ人の誤った断定を正し(ヨハネ7・45以下参照)、アリマタヤのヨセフと共にイエスの遺体を葬った(ヨハネ19・38以下参照)。

12 地上のことを語っている 新生は神による業であるが、人間の魂の内になされることとして地上のことである。**天上のことを語った場合** 神のひとり子イエスが人類の罪をあがなうために死に渡され、永遠の命を与えるものとなる。神が備えられた大いなる救いの真理である。

13 天から下ってきた者 言うまでもなく神の子イエスを指す。救いは律法主義者のパリサイ人が主張するように、地上の人間の努力でなされるのではない。天上の神から与えられなければ、人は救いに与れない。

14 モーセが荒野でへびを上げたように パリサイ人が崇敬するモーセの故事が引用される。青銅のへびを仰いだ者のみが救われた。イエスは十字架に上げられることによって救いを成就された。**参考図書** Leon Morris(NICNT:FEEDMAN'S), Beasley-Murray (WBC:WORD). 他

聖書

ヨハネ3・15

タイトル

イエス様を訪ねた学者ニコデモ

だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない。

目標

ヨハネ3・3
新生の必要を知り、キリストを信じる。

導入

(松浦み)

赤ちゃんの目はとても愛らしいですね。なぜ、人間の目だけが生まれた時から瞳を開んで白く輝いているのかを研究している人がいます。その人によると人間は他の動物とは違い、互いに信頼しあい、協力する者としてつぐられ、目をコミュニケーションの手段として使います。自分の目がどこに向いているかをできるだけはつきり相手に知らせ、心を通わせようとするのです。そのため、瞳の周りが白くなり、くつきりと輝くようなつづらな目になったそうです。「目は口ほどにものを言う」とか、「目を三角にする」とか、「目の色が変わる」とか、目に関する表現がいろいろありますね。これは、白目をもつ人間にだけ与えられた特権のようです。今日は、イエス様の澄んだ瞳に見つめられて人生が変わった人のお話をしましょう。

夜訪ねてきたニコデモ

ある夜、一人のおじいさんが暗い道を歩いて、イエス様を訪ねてきました。ニコデモという名前のとても偉いユダヤ教の先生でした。町の人は「ニコデモ先生は立派な人だ」と言います。聖書の勉

強もたくさんしたので何でも知っています。しかし、どうしてそのような立派な先生のニコデモが、イエス様を訪ねてきたのでしょうか。しかも、夜に。ニコデモは、以前からイエス様の教えや病気を治したりなさる業を見聞きして、感心していました。そして、ぜひ個人的にイエス様とお話をしたいと考えていたのです。だからそつと夜にイエス様を訪ねてきたのです。

新しく生まれる

「先生は、本当に神から遣わされたお方だと思います。そうでなければ、あのようなすばらしい業ができるはずはありません」と、ニコデモはイエス様をほめたええました。すると、イエス様は「だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない」とおっしゃいました。「えっ、新しく生れるって、そんなこと！」ニコデモはびっくりして言いました。「こんな年寄りの私が、もう一度、お母さんのお腹に入って生れるなんて、そんなことできつこありません」。イエス様は、ニコデモの心の中まで見通すような目で、じつと見つめながら静かにおっしゃいました。「新しく生れるということは、体のことではありません。だれでも水と霊とから生れなければ、神の国に入ることにはできないのです」。いったいどういうことなのでしょう。ニコデモはちんぷんかんぷんです。新しく生れるというのは、イエス様を信じてバプテスマを受け、救われるということです。どんなに勉強しても、どんなに良いことをしても、イエス様を信じなければ、救われて神の国に入ることにはできません。それは、神様の霊の働きによるのです。風は目で

見ることもつかまえることもできませんね。でも、木の葉やカーテンの揺れや音によって、確かに風が吹いていることがわかります。同じように、人が救われることも人間の目には見えませんが、その人の生き方が変わるので、知ることができるのです。

見上げて信じる

そこでイエス様は、昔イスラエルの人たちが経験したことを通して、その真理を教えられました。イスラエルの人たちは荒野を旅する途中で神様に不平を言って逆らった時、神様の罰を受け、毒へびにかまれて、多くの人が死んだことがありました。その苦しみの中、自分の悪かったことを認めて神様に助けを求めた人々に、神様は助かる方法を教えてくださいました。それは旗竿の先につけて高く上げられた青銅のへびを見上げれば良い、という不思議な方法でした。そのことを信じて、青銅のへびを見上げた人々は助かりました。イエス様はその青銅のへびと同じように、まもなく自分が十字架にかけられることをお話になりました。「わたしは十字架にかけられるために天から下って来た者なのだ。この十字架を見上げて信じる者は救われる」と。ニコデモは信じたのです。私たちも、十字架のイエス様を見上げましょう。疑うことなく信じて、見上げるとき、その信仰によって救われ、新しく生れ変わり、神の国に入る者となるのです。このすばらしい救いを、お家の人や、お友だちにも教えてあげましょう。

♪じゅうじか わが力♪

(ホーリネス・子どもさんびか115)



牧羊ひろば

長崎めぐみ教会・クリスマス劇 湖西教会・教会学校

今号は「長崎めぐみ教会」と「湖西教会」のCSを紹介していただきました。長崎は、まだCSという形に至っていないのに、子どもたちを集めてクリスマス劇を実施したことにビックリ！湖西教会は、長年の地道な種まきが実を結んでいることに刺激を受けました。

「長崎めぐみ教会」

長谷部裕子

新しい町での子ども伝道「めぐみキッズ」
長崎めぐみ教会は時津町という新しい町に越してきて丸二年が経ちました。教会学校は生徒不在のために旧会堂時代から長らく休校状態が続いています。教会を移転して気がついたことは、高齢化世帯が多い旧市街に比べ、時津は新興住宅地で若い家庭も多く子どもたちがたくさんいることでした。子どもにアプローチをかける最初のきっかけは二〇〇八年七月に神学校キャラバンが「めぐみキッズ」というネーミングで子ども集会を開いてく

れたことです。当日子どもたちは予想を遥かに超えて三十二名が集まり狭い会堂にひしめき合う夢のような光景でしたが、翌日の教会学校に彼らをつなげることはできませんでした。それでもキャラバンがもたらした子ども伝道の灯火を何とか消さないで存続してゆこうと、同年九月から月に一度「めぐみキッズ」を続けました。月例集会になつてからの集会人数は十名以下と人数は多くありませんが、集会を楽しみに来てくれるリピーターも与えられ、新しい町での子ども伝道の小さな種まきはこうに始まりました。



08年7月・神学校キャラバン

人形劇上演に向けての大チャレンジ

二〇〇九年から奉仕に加わったU姉が昨年夏にある提案を出されました。めぐみキッズにリピーターで来てくれる子どもたちに呼びかけて、クリスマスの子ども集会で彼らが人形劇を上演するという楽しい計画でした。教会はこの提案を受けて九月中旬から三ヶ月を費やして準備に明け暮れました。上演する劇は「くつやのマルチン」と決まり、毎週水曜日午後三時半から、子どもたちには台本の読み合わせをさせました。セリフをすらすら読む高学年に比べ、低学年の子はたどたどしく

ようやく読み終えます。集まる子どもが毎週同じではないので毎週配役が変わったり、セリフの長い主役のマルチンはみんなが敬遠したりと、予想外の出来事に対応しながら、飽きっぽい子どもたちをなだめすかし、忍耐の練習は続けられました。

練習の合間には、U姉に手ほどきを受けて、劇に必要な六体の人形を三人の奉仕者で製作を進めました。人形製作は思ったより多くの複雑な工程を経て完成する難作業でした。まず人形の頭は立方体の発泡スチロールを丸く削り、接着剤に浸した薄紙を二度貼り付け、乾かしたら、その上に肌色のアクリル絵の具を塗ります。髪の毛は毛糸を束ねて頭に接着して、次は衣装です。キャラクタ―に合わせて衣装をフェルトで縫ったら、頭と接合して最後に顔を描きます。その他にも劇で使う小物製作、人形劇の舞台設置、背景、効果音など、次から次へと仕事は山積でした。やっと完成した人形



09年12月クリスマス人形劇上演



08年めぐみクリスマス



マルチン劇の人形



人形の材料

た。ところが、テープに合わせて人形を動かす本番直前の練習をする段になると、子どもたちは飽きてしまい、ふざけ合って練習に身が入りません。正直なところ、この人形劇は本当に上演できるのか、最後まで私たちは頭を抱えつつ祈りました。しかし神様は万事を益と変えてくださいました。子どもクリスマス会当日には保護者も見にこられ、出演者の子どもたちは、本番では観客の前にすると一生懸命演じてくれて、大喝采のうちに幕を閉じました。すべての労苦はこの日をもって報われました。

も、子どもたちの手にか

かると放り投げたり引つ張ったりと、ぞんざいな扱いにヒヤヒヤさせられ、私たちを嘆かせました。

人形を動かしながらセリフを言うのは子どもたちには至難の業ですから、あらかじめセリフを収録しなければなりません。配役が全員揃うように録音日を調整して、当日はマイクを囲んで子どもたちを座らせ、セリフ以外は絶対に声を出してはいけません、と念を押して収録がやっと完了しました。

毎週水曜日の集会「Jキッズ」へ転換

人形劇の練習で週日に集まるのが習慣になった子どもたちがベースとなり、水曜日の放課後三時半から一時間程度「Jキッズ」という集会を、クリスマス後から始めました。日曜日の教会学校までには、まだ遠い道のりですが、教会に親しみを感じて子どもたちが集まることで、ご家族との関係も自然に始まりました。とは言え、地方ではノンクリスチャンで初めて礼拝に来る方は稀で、人の心の壁は未だに厚いと感じます。それに比べて子どもたちは、偏見やこだわりなく教会にやってくる。地方では児童伝道が、家庭、学校、地域の伝道の突破口になると神様に期待しています。



「湖西教会・教会学校」

伊藤 初

【歴史】

湖西教会は、滋賀県高島市（旧・高島郡）新旭町にあり、今年で創立六十四年目になります。当初から子どもたちへの伝道に重荷をもたれた先生方や兄弟の尊い働きによって、今日まで教会学校が続けられて来ました。

教会員の中には子どもたちのころ、教会学校を通して福音に触れて救われ、今まで信仰生活が続けている方もいらっしゃる。また、現在、近所から集まっている子どもたちの大半が、両親が子どもたちの教会学校に行っていたという家庭の子たちです。六十年以上にわたってまき続けて来たみ言葉の種

が、決して無駄にはなっておらず、着実に伝道の実が結ばれて来ていることを思い、感謝しています。

【毎週の教会学校】

日曜日の教会学校は、午前九時から、礼拝三十分、分級三十分という内容です。教師は教職二名、信徒四名ほどです。集う子どもたちは平均八名のクリスチャンホームの子と地域の子が半々ぐらいの割合です。毎月第一日曜日には、礼拝の後、誕生日会を開き、ケーキの飾り付けやクレープ作りなどを行っています。

その月の誕生日の子にはプレゼントを用意し、しばらく離れている子を教会に誘う機会にしています。また、二ヶ月に一度、大人の礼拝のプログラムの中に、教会学校の生徒と合同の賛美があります。（大人の方も二〜三週間前から、礼拝前に子ども

の賛美を練習しています。子どもにとつては大人の礼拝に馴染む機会になり、大人の方にとっては教会学校に関心をもつ



誕生日会

誕生日会・ケーキ作り

ていただく機会となればと願っています。

【年間行事】

毎年夏には、「湖西祈りの家」を利用し、一泊二日のキャンプをします。内容は集会の他に、大人



サマーキャンプ・流しそうめん

と一緒のバーベキュー、花火、ゲームなどです。昨年は、兄弟の協力により、自宅の庭から竹を採ってきてもらい、流し

そうめんをしました。今までは楽しく遊ぶ事(食べる事?)が中心でしたが、今

後は、集う子どもたちが、高学年になってきていることから、み言葉に向き合う時を増やしていきたいと考えています。



クリスマスオペレッタ

またクリスマスには、生徒たちでオペレッタ(賛美が間に含まれる劇)を練習し、大人の祝会と、子どもクリスマス会において二度発表しました。祝会では、当日来ることができなくても、ビデオ

に録画したものを見られた祖父母の方などもおられ、広く福音を伝える機会となりました。その他にも年間行事として、お楽しみ会、芋ほり、野外礼拝(予定)などを行なっています。子どもお楽

【伝道方法】

子どもお楽しみ会、クリスマス会の前には、近隣の小学校の前でトラクトを配布します。子どもたちの反応が良く、持って行ったトラクトが余ることとはほとんどありません。それでもそのトラクトを見て集会に来てくれる子はわずかです。それ以上にも多いのは、友だちに誘われて来る子たちです。このことから、教師が外に出て行って伝道することももちろん大切ですが、友だちを誘いやすい教会学校、もう一度行きたくなるような教会学校にすることが、伝道につながっていくことを学びました。また、子どもたちのご家族に教会学校のことを理解していただくために、保護者を対象とした「教会学校だより」を年に数回発行しています。

【今後の課題】

冒頭にも書きましたが、地域に教会学校が浸透しているため、地域から子どもたちが割合に多く集まっているというのが湖西教会の特徴です。しかし、高学年になると習い事で毎週は来られなくなり、中学に入ると部活でほとんど来られなくなるというのが現状です。また、最近では子どもたちを取り巻く状況も複雑になってきており、家庭に問題を抱える子やいじめなどの話も耳にします。しかし一昨年のことですが、感謝なことに一人のクリスチャンホームの子が信仰告白に導かれました。さらには今、継続的に集っている六く七名の高学年の子たちが、明確な信仰に導かれることを願っています。お祈りください。

「おわりに」

『牧羊者』二〇一〇年度第Ⅱ巻をお届けできますことを感謝します。執筆者の方々には、年度変わりのあわただしい中を、また、イースター前後の貴重な時間を割いて執筆していただき、心から感謝いたします。

今回は、今年初めに実施しました「牧羊者使用状況アンケート」を集計しました。アンケートへの回答だけでなく、執筆者のコメント、出版する側のCS局の考え・方針も掲載し、誌上で三者の会話を実現しました。牧羊ひろばでは、長崎めぐみ教会のクリスマス人形劇、湖西教会のCSの取り組みを紹介していただきました。終わりに今号の執筆者、奉仕者を紹介いたします。

聖書講解 鎌野善三師 水川武志師 大頭眞一師

研究資料 福井文彦師 高橋頼男師

メッセージ例 中島啓一師 宮澤清志師 井上義実師

ワーク(A) 松浦みち子師 飯田勝彦師 和田治師

ワーク(B) 吉田美穂師 鎌野幸師

(B) 野勢かほる師 佐藤直哉師

(C) 小泉創師 田代美雪師

(D) 上森恭子師 竹崎光則師 杉山俊一師

中高へのヒント 朝川清英師 石田高保師

子ども聖書日課 小野淳子師

フラッシュカード 土屋直子師 丹羽遥師 児玉敬子師

イラスト 伊中めぐみ師 児玉敬子師(ワーク表紙)

ワーク打ち込み 楠淳子師 長尾明美師

校正 長田栄一師 光田隆代師

長尾秀紀師 長尾明美師

また、陰で労してくださった各師と兄弟姉妹、ワーク印刷と発送のベラカ出版、印刷のあくもとと菱三印刷に心から感謝いたします。(長尾秀紀)

聖書教育教案誌 牧羊者

二〇一〇年度Ⅱ巻

二〇一〇年七月一日発行

発行所 有限会社 ベラカ出版

企画監修 日本イエス・キリスト教団教会学校局

神戸市兵庫区塚本通三―三―一九

電話(〇七)五七五―五五一一

FAX(〇七)五七五―五六一一

印刷所 菱三印刷株式会社

電話(〇七)五七六―三九六一

*日本聖書協会『口語訳聖書』使用許諾済み